



Light Piano

YPP-100

取扱説明書

ごあいさつ

このたびはヤマハ Light Piano YPP-100 をお買いもとめいただき、
 まことにありがとうございます。YPP-100 のさまざまな機能を十分に活用するために、
 この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。
 なお、読み終わったあとも、保証書とともに大切に保管して、
 操作のしかたがわからないときにお読みください。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

この製品の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。

警告

電源 / 電源アダプター



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの (PA-5D) を使用する。
(異なった電源アダプターを使用すると) 故障、発熱、
火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを
きれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。



禁止

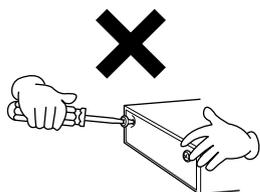
電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

感電や火災、または故障の原因になります。



禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にもろうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

電源アダプターコード / プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

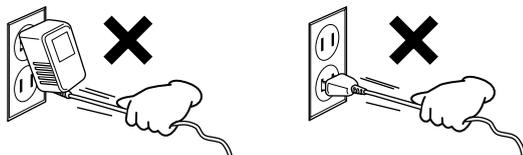
注意

電源 / 電源アダプター



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源アダプターコードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



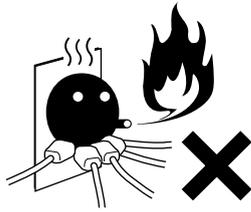
必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。



たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



設置



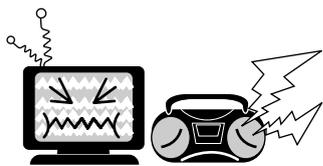
直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多い場所で使用しない。

本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。

楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

必ず実行

コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。

必ず実行

本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

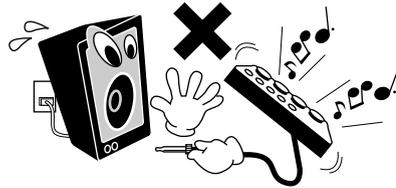
接続



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。

感電または機器の損傷の原因になることがあります。



手入れ



禁止

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。

本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

使用時の注意



ご注意ください

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



禁止

本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。

本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



データの保存



必ず実行

内部のデータは電源を切っても約 1 週間保持されます。約 1 週間以上過ぎるとこのデータは消えてしまいますので、1 週間以内に数分間は電源を入れてください。また、このデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、ヤマハ MIDI データファイラー MDF3 などの外部メディアに保存してください。

外部メディアのバックアップ



必ず実行

保存した外部メディアの万一の事故に備えて、大切なデータは予備の外部メディアにバックアップとして保存されることをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

電源スイッチを切った状態（電源スイッチが「STANDBY」の状態）でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

この製品は、ヤマハ（株）が著作権を有する著作物やヤマハ（株）が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ（株）の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

- ・ Macintosh は、米国および他の国々で登録された Apple Computer, Inc. の商標です。
- ・ Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名および商品名などは、各社の登録商標または商標です。
- ・ 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会（AME）の登録商標です。

音楽を楽しむエチケット



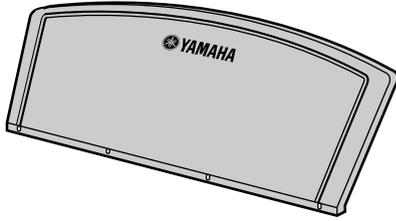
これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

- ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

付属品 (お確かめください)

▼ 譜面立て



▼ 保証書

【持込修理用】 ヤマハポータブル楽器保証書		MODEL	YPP-100
ご購入日より、本保証書に記載の期間、条件を以て、お買い上げの楽器本体に限り、修理費用を無料でお届けいたします。ただし、保証書に記載の条件に該当する場合は、修理費用がかかります。		お買い上げ日	年 月 日
		保証期間	本体 お買い上げの日から、1年間
		販売店名	
		所在地	
		電話	(電話番号)
		お名前	姓
		ヤマハ株式会社 国内総代理店 E&E音楽株式会社 全国営業部 〒100-8585 東京都千代田区千代田 1-1-1	

▼ キーボードスタンド

▼ フットスイッチ

▼ 電源アダプター PA-5D



YPP-100 でこんなことができます

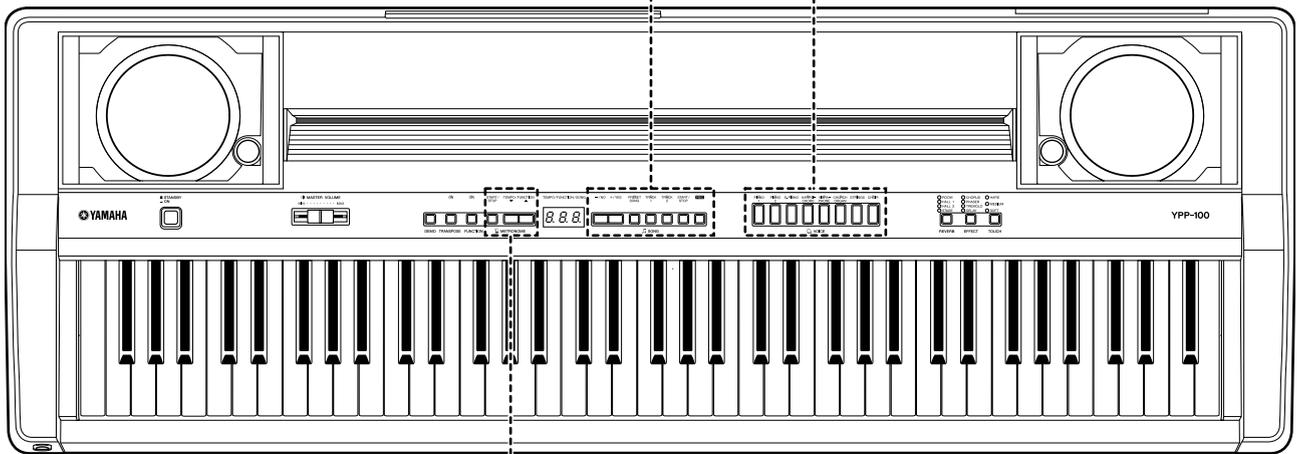
準

備

リアルなピアノ音色と、リアルなタッチで、本格的なピアノらしい演奏が楽しめます。

本体にピアノ20曲の演奏データが入っています。
これらを鑑賞するだけでなく、便利な練習機能を使って練習することもできます。
(P17~20)

ピアノ以外の音色でも演奏できます。
(P21、26)



「音量調節ができる」
「ヘッドフォンで練習できる」
「調律不要」
と、便利で経済的です。

メトロノーム機能が、練習のお役に立ちます。
(P27)

取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます

この本は、「準備」「本編」「付録」の3部構成になっています。

- 準備** / 最初にお読みください。
- 本編** / YPP-100の機能を詳しく説明しています。
- 付録** / その他の資料を掲載しています。

表記上の決まり

【 】: パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダー、ジャック(端子)といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームマスター ボリュームのスライダーは、文章中で**【MASTER VOLUME】**と表記します。

・本書では、以下に示すような矢印を使って操作の結果と手順を区別しています。

- ⇨ ※※※ ○○○の操作を行った結果、※※※の状態になることを示しています。
(操作の結果を示します。)
- ➡ ☆☆☆ ○○○の操作を行ったあと、☆☆☆の操作を示しています。
(操作の手順を示します。)

※ この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

目 次

準 備

安全上のご注意	2
付属品（お確かめください）	6
YPP-100 でこんなことができます	7
取扱説明書（本書）はこんなふうにお役にたちます	8
目次	9
ご使用前の準備	10
・電源の準備	10
・電源を入れる	10
・ボリュームを調節する	10
・ヘッドフォンについて	11
・フットスイッチ端子について	11
・MIDI 端子について	11
・譜面立ての取り付け方	12

本 編

各部の名前	14
デモ曲を聞く	16
ピアノ 20 曲（プリセットソング）を聞く	17
・ピアノ 20 曲の片手練習をする	18
・ピアノ 20 曲の部分練習をする	20
音色を楽しむ	21
・音色を選ぶ	21
・ペダルを使う	21
・音に変化を付ける・・・	
【REVERB】 / 【EFFECT】	22
・タッチ感を変える・・・【TOUCH】	24
・キー（調）を変える・・・【TRANSPOSE】	25
・2つの音色を混ぜる（デュアル）	26
・メトロノームを使う（METRONOME）	27
演奏を録音（記録）する	28
・最初のトラックに録音する	28
・録音し直す	29
・続いて2つめのトラックに録音する	30
・初期値（曲の先頭に記録されたデータ）を変更する	31
録音した曲を再生する	32
・再生の手順	32
・再生に関する便利な機能	33
各種の便利な設定をする・・・	
【FUNCTION】	34
・ファンクションでの基本操作	35
・各ファンクション項目の説明	37
F1. 音程の微調整	37
F2. 音律（調律法）の選択	37
F3. デュアルの諸設定	38
F4. ペダル機能の設定	39

F5. メトロノーム音量の設定	39
F6. ピアノ 20 曲のパート再生 OFF 時の音量設定	39
F7. MIDI 機能の諸設定	39
F8. バックアップ ON/OFF の設定	41
MIDI について	43
他の機器と接続する	44
・端子について	44
・パーソナルコンピュータと接続する	45
故障かな？と思ったら	46

付 録

音色一覧	48
デモ曲一覧	49
ピアノ 20 曲一覧	49
基本設定一覧	50
MIDI データフォーマット	51
MIDI インプリメンテーションチャート	54
キーボードスタンドの組み立てかた	55
別売品のご紹介	59
仕様	60
索引	61
保証とアフターサービス	63

ご使用前の準備

電源を入れる前に必要な準備について説明します。

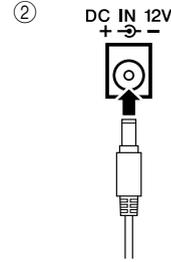
電源の準備

- ① 本体の電源スイッチが切れている（スタンバイになっている）ことを確認してください。



付属のアダプターをご使用ください。他の電源アダプターの使用は故障、発熱、発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、充分にご注意ください。

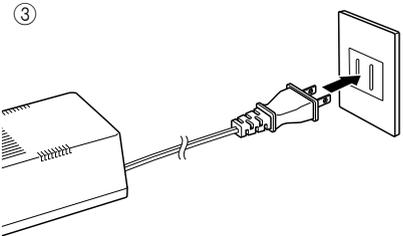
- ② アダプターの DC プラグをリアパネルの **[DC IN 12V]**（電源アダプター接続）端子にさし込みます。



- ③ アダプターの AC プラグを家庭用 (AC100V) コンセントにさし込みます。



使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。



電源を入れる

[STANDBY/ON] スイッチを押すと、電源が入ります。もう一度押すと電源が切れます。



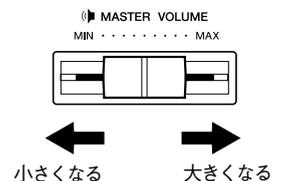
スイッチが「切」(STANDBY の位置) の状態でも微電流が流れています。YPP-100 を長時間使用しないときは必ず電源アダプターを抜いてください。

ボリュームを調節する

本体パネル左の **[MASTER VOLUME]** を左右に動かして調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。

[MASTER VOLUME] = 全体の音量

Point **[MASTER VOLUME]** で **[PHONES]** の出力レベルや **OUTPUT** の出力レベルも調節できます。



ヘッドフォンについて

ヘッドフォンを【^{フォンス}PHONES】端子に接続して使います。ヘッドフォンを接続するとYPP-100本体のスピーカーからは音が出ません。

また、【^{フォンス}PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。(1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。)

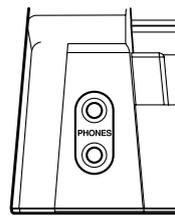


大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。



別売ヘッドフォン…

YAMAHA ヘッドフォン HPE-150 (税別価格：4,000円)



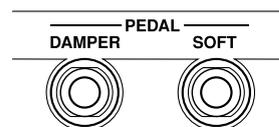
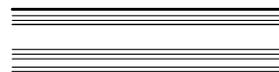
ステレオフォンプラグ
(標準)

フットスイッチ端子について

フットスイッチをこの端子に接続すると、スイッチ操作でサステインのオン / オフ、音量の変化やソングのスタート / ストップができます。



- ・フットスイッチを使用するときは、【^{ペダル}PEDAL】端子にフットスイッチを接続してから電源を入れてください。
- ・フットスイッチを踏みながら電源を入れないでください。踏みながら電源を入れると、オン / オフが逆になります。



ミディ

MIDI 端子について

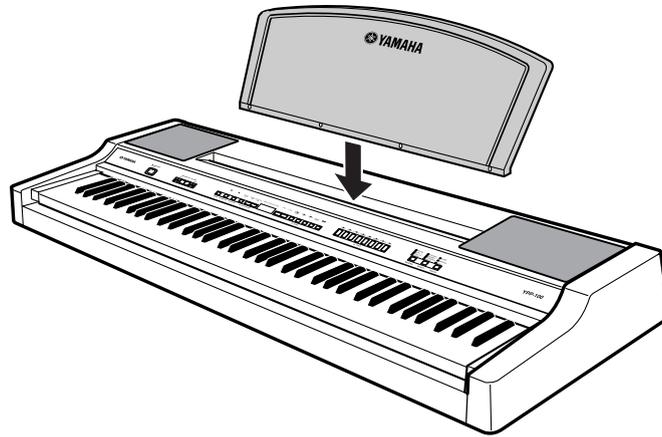
MIDI ^{イン}[IN] 端子は外部の MIDI ^{ミディ}機器から MIDI ^{ミディ}信号を受信します。MIDI ^{アウト}[OUT] 端子は YPP-100 から MIDI ^{ミディ}信号 (YPP-100 で演奏した音符やキーをたたいた強さなど) を他の機器に送ります。



- ・MIDI ^{ミディ}ケーブルは楽器店などでお買い求めください。
- ・MIDI ^{ミディ}ケーブルは 15m が限度とされています。これ以上長いケーブルをご使用になりますと、誤動作などトラブルの原因になりますのでご注意ください。

■ 譜面立ての取り付け方

スロットに差し込んでください。

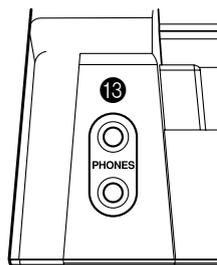
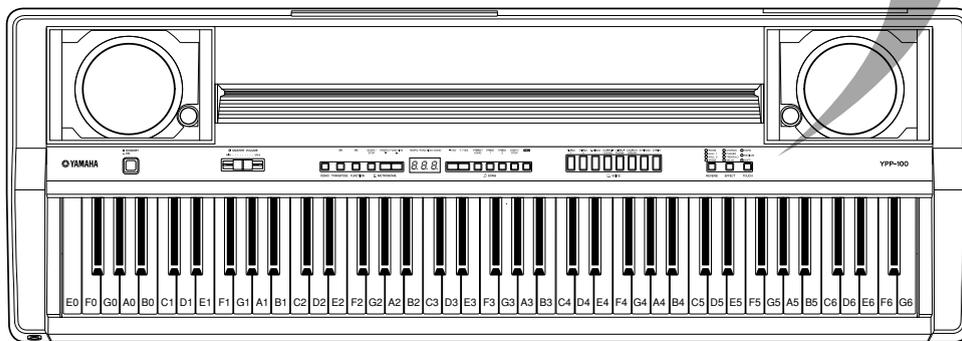
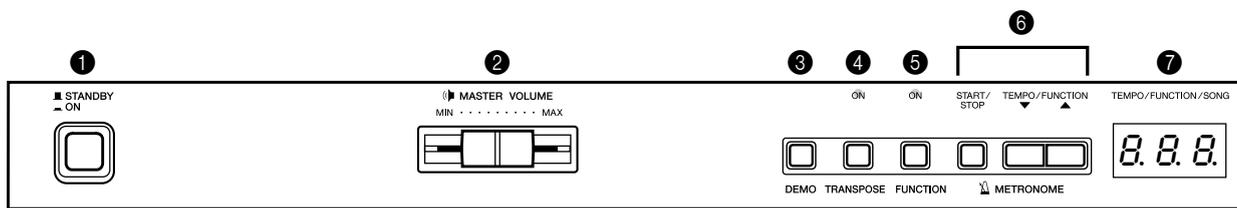


本編

● YPP-100 の使い方を詳しく説明しています。

各部の名前.....	14	各種の便利な設定をする・・・【FUNCTION】....	34
デモ曲を聞く.....	16	ファンクションでの基本操作.....	35
ピアノ 20 曲（プリセットソング）を聞く.....	17	各ファンクション項目の説明.....	37
ピアノ 20 曲の片手練習をする.....	18	・ F1.音程の微調整.....	37
ピアノ 20 曲の部分練習をする.....	20	・ F2.音律（調律法）の選択.....	37
音色を楽しむ.....	21	・ F3.デュアルの諸設定.....	38
音色を選ぶ.....	21	・ F4.ペダル機能の設定.....	39
ペダルを使う.....	21	・ F5.メトロノーム音量の設定.....	39
音に変化を付ける・・・【REVERB】 / 【EFFECT】.....	22	・ F6.ピアノ 20 曲のパート再生 OFF 時の音量設定.....	39
タッチ感を変える・・・【TOUCH】.....	24	・ F7.MIDI 機能の諸設定.....	39
キー（調）を変える・・・【TRANSPOSE】.....	25	・ F8.バックアップ ON/OFF の設定.....	41
2 つの音色を混ぜる（デュアル）.....	26	MIDI について.....	43
メトロノームを使う（METRONOME）.....	27	他の機器と接続する.....	44
演奏を録音（記録）する.....	28	・ 端子について.....	44
最初のトラックに録音する.....	28	・ パーソナルコンピュータと接続する.....	45
録音し直す.....	29	故障かな？と思ったら.....	46
続いて 2 つめのトラックに録音する.....	30		
初期値（曲の先頭に記録されたデータ）を変更する..	31		
録音した曲を再生する.....	32		
再生の手順.....	32		
再生に関する便利な機能.....	33		

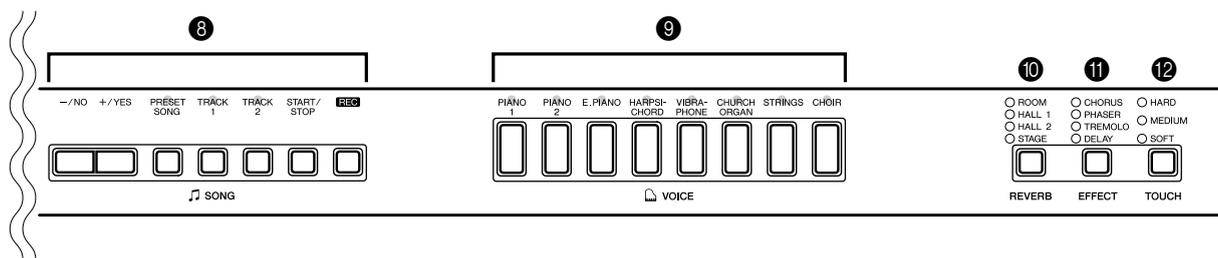
各部の名前



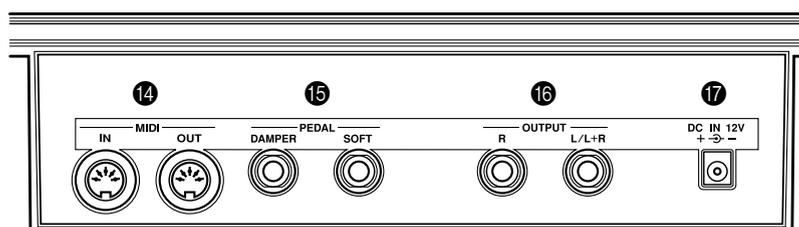
トップパネル

- ① スタンバイ/オン **[STANDBY/ON]** P10
- ② マスター ボリューム **[MASTER VOLUME]** P10
- ③ デモ **[DEMO]** P16
- ④ トランスポーズ **[TRANPOSE]** P25
- ⑤ ファンクション **[FUNCTION]** P35
- ⑥ メトロノーム **METRONOME [START/STOP]**
テンポ/ファンクション **[TEMPO/FUNCTION ▲▼]** P27, 35
- ⑦ **ディスプレイ** P15
- ⑧ ノー **[-/NO]** / イエス **[+/YES]**
プリセット ソング **[PRESET SONG]**
トラック **[TRACK1]**
トラック **[TRACK2]**
ソング スタート/ストップ **SONG [START/STOP]**
レコード **[REC]** P16 ~ 20, 28 ~ 33

- ⑨ **音色ボタン** P21
- ⑩ リバーブ **[REVERB]** P22
- ⑪ エフェクト **[EFFECT]** P22
- ⑫ タッチ **[TOUCH]** P24
- ⑬ フォーンズ **[PHONES]** P11



端子パネル



⑭ ^{ミディ} ^{イン} ^{アウト} MIDI [IN] [OUT] P43 ~ 45
 ⑮ ^{ペダル} PEDAL
^{ダンパー} [DAMPER] ^{ソフト} [SOFT] P21, 39, 44

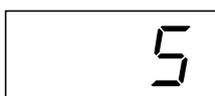
⑯ ^{アウトプット} OUTPUT [R] [L/L+R] P44
 ⑰ DC IN 12V P10

ディスプレイ

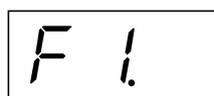
- ・ 操作結果をパネル中央のディスプレイで確認しながら進めてください。
- ・ 場面に応じて下記のような表示になります。



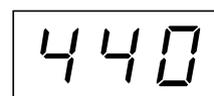
テンポ
(通常の表示)



ピアノ20曲の曲番号



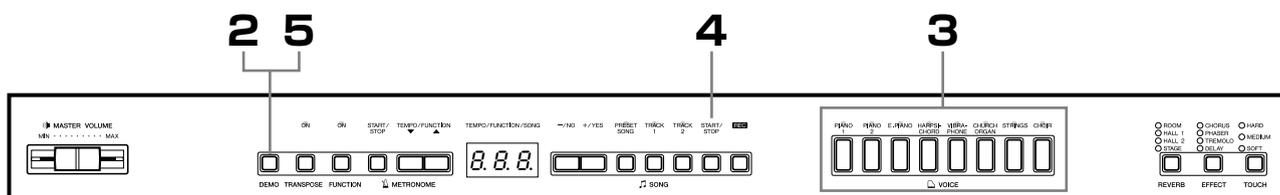
ファンクション項目番号



各種設定値

デモ曲を聞く

YPP-100 には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。



操作

1. 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合) **[STANDBY/ON]** スタンバイ/オン を押します。

⇒ 電源が入ります。

音量はデモ曲を再生しながらでも調節できますが、**[MASTER VOLUME]** マスター ボリューム を中程まで上げておいてください。

2. デモ曲モードに入る

[DEMO] デモ を押します。

⇒ 音色ボタンのランプが流れるように点滅します。

3. 選曲と再生スタート

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。(音色ボタンを押さずに **SONG [START/STOP]** スタート/ストップ を押すと、PIANO 1 の曲が再生されます。)

⇒ デモ曲の再生がスタートします。その後、ストップするまで順番に別の音色のデモ曲が連続して再生されます。

音量の調節

デモ曲を聞きながら **[MASTER VOLUME]** マスター ボリューム で音量を調節します。

4. 再生ストップ

再生をストップする場合は、**SONG [START/STOP]** スタート/ストップ か再生中の音色ボタン (再生中は点滅しています) を押します。

5. デモ曲モードを抜ける

[DEMO] デモ を押します。

⇒ 音色ボタンのランプの流れるような点滅が止まります。

Point. デモ曲の曲名リスト

音色ごとのデモ曲には、各音色の特徴がよくわかる曲が選ばれています。デモ曲一覧を P49 に掲載しています。

👉 デモ曲の再生データは MIDI 送信されません。また、デモ曲モード中は MIDI 受信を行いません。

👉 ピアノ曲モード (P17) のとき、録音モード (P28) のとき、録音した曲の再生中 (P32) は…デモ曲モードには入れません。

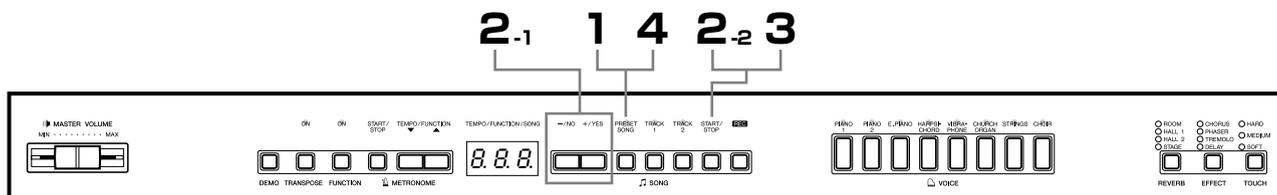
👉 モードとは…

ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、デモ曲を再生できる状態のことを「デモ曲モード」と呼んでいます。

👉 デモ曲では、テンポの調節や「片手練習」(P18)、「部分練習」(P20) はできません。

ピアノ20曲(プリセットソング)を聞く

YPP-100には、ピアノ20曲の演奏データが入っています。聞いてみましょう。



操作

1. ピアノ曲(プリセットソング)モードに入る

【PRESET SONG】を押します。

⇒ 【PRESET SONG】のランプが点灯します。

2. 選曲と再生スタート

2-1 【-/NO】 【+/YES】を押して、聞くピアノ曲を選びます。

1 ~ 20: 聞く曲番号を指定して1曲だけ再生するモードです。

ALL: ピアノ20曲を順番に、ストップするまで連続再生するモードです。

rnd: ピアノ20曲を順不同に、ストップするまで連続再生するモードです。



曲番号

SONG 【START/STOP】を押すと再生がスタートします。

2-2 音量の調節

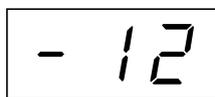
ピアノ曲を聞きながら【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されています。

【TEMPO/FUNCTION ▼ ▲】を押してテンポの変更ができます。

【▼】 【▲】を同時に押すと曲固有のテンポに戻ります。



操作時、曲固有のテンポに対してのプラスマイナスの値(-50~50)で表示されます。(曲によって増減幅は異なります。)曲固有のテンポのときは「——」と表示されます。

メトロノームを鳴らす

ピアノ曲の再生と一緒にメトロノームを鳴らすこともできます。METRONOME 【START/STOP】を押すとメトロノームが鳴り、もう一度押すと止まります。

3. 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、SONG 【START/STOP】を押します。

・続いて他の曲を再生する場合は、操作2に戻ります。

👉 デモ曲モード(P16)のとき、録音モード(P28)のとき、曲の再生中(P32)は・・・ピアノ曲モードには入れません。

👉 SONGソングとは・・・

YPP-100では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲やピアノ曲も演奏データです。

👉 再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます

👉 手弾き音と再生音用に【REVERB】(P22)を、手弾き音用に【EFFECT】(P22)の効果を付けることができ、【TOUCH】(P24)を切り替えることもできます。

👉 テンポのリセット(再設定) 新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

👉 【REVERB】は新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)【HALL1】になります。

4. ピアノ曲モードを抜ける

【PRESET SONG】を押します。

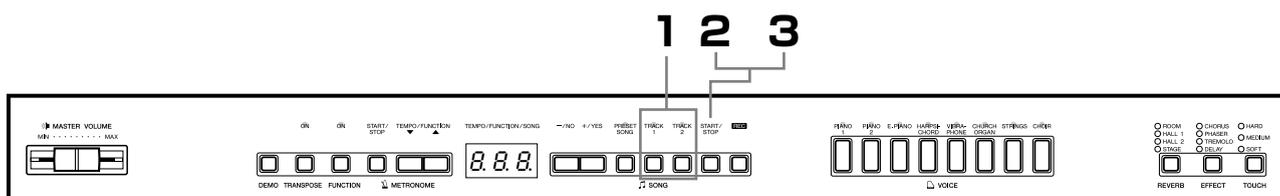
⇒ 【PRESET SONG】のランプが消灯します。

次に、ピアノ 20 曲の、右手または左手パートの再生を OFF にしてご自分で練習する方法（片手練習）と、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法（部分練習）を説明します。

👉 ピアノ曲の再生データは、MIDI 送信されません。また、ピアノ曲モード中は MIDI 受信を行いません。

ピアノ 20 曲の片手練習をする

ピアノ 20 曲では、右手パートと左手パートが別々のトラックに入っています。それぞれの再生を ON/OFF し、再生を OFF にしたパートをご自分で練習することができます。右手パートが【TRACK1】に、左手パートが【TRACK2】に入っています。



操作

1. 練習するパートの再生を OFF にする

選曲したあと再生を OFF にしたい側のトラック【TRACK1】【TRACK2】を押します。（選曲した時点では【TRACK1】【TRACK2】共ランプが点灯しています。）

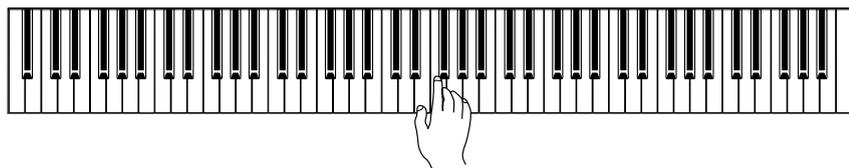
⇒ 押した方のボタンのランプが消灯します。

・それぞれのボタンは、押すごとに再生の ON/OFF が切り替わります。

👉 ピアノ 20 曲を ALL と rnd(P17) で再生しているときは、パートの再生を OFF にすることはできません。

2. 再生スタート / 演奏

SONG【START/STOP】を押して再生をスタートします。再生を OFF にしたパートをご自身で演奏してください。



📌 再生中の、パートごとの再生 ON/OFF...

再生中でも、パートごとの再生 ON/OFF を切り替えることができます。

📌 再生を OFF にしたパートの音量調節...

再生を OFF にしたパートは演奏タイミングのガイドのために、完全に音を消すのではなく、少しだけ音を出すようにしています。この音量を調節して、完全に音を消すこともできます。ファンクション (P39) をご参照ください。

弾くと同時に再生をスタートする (シンクロススタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート (シンクロススタート) することができます。

再生 ^{オン} ON のパートのボタンを押したまま ^{ソング} SONG **[START/STOP]** を押すとシンクロススタート待機状態になります。

⇒ ディスプレイにシンクロススタートのマーク「.」が現れ、点滅します。

(もう一度同じ操作をすると、シンクロススタートは解除されます。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。



曲番号
シンクロススタートの
マーク

ペダルでスタート/ストップする

ペダルでスタート/ストップすることができます。

ファンクション (P39) でペダルの機能をスタート/ストップ (パネルの ^{ソング} SONG ^{スタート/ストップ} [START/STOP]) と同じ機能) に切り替えます。

3. 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、^{ソング} SONG ^{スタート/ストップ} [START/STOP] を押します。

 シンクロ=同時の、同時に起こる

②。再生 ^{オフ} OFF のパートのボタンを押したまま ^{ソング} SONG ^{スタート/ストップ} [START/STOP] を押すと…

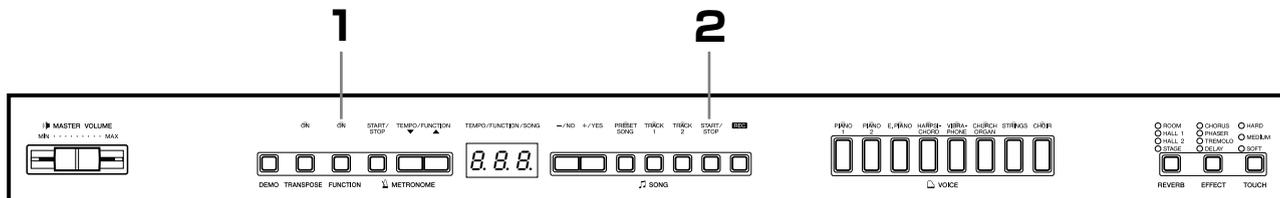
そのパートの再生が ^{オン} ON になり、シンクロススタート待機状態になります。

②。パート再生のリセット (再設定) …

新しい曲を選ぶと自動的に両パートとも再生 ^{オン} ON にリセットされます。

ピアノ 20 曲の部分練習をする

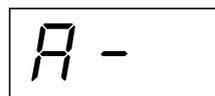
曲中のフレーズを指定して繰り返し練習（部分練習）することができます。18 ページの「ピアノ 20 曲の片手練習」も一緒にお使いいただけます。



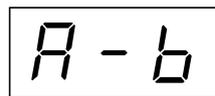
操作

1. フレーズの始まり(A点)と終わり(B点)の指定と練習スタート

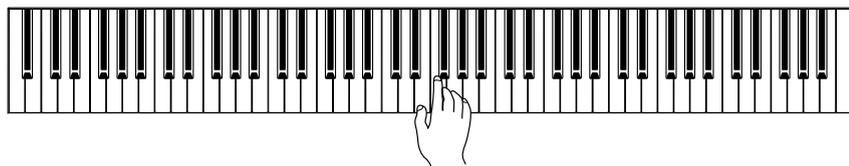
選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところで **[FUNCTION]** を押します。
⇒ 始まり(A点)が設定され、ディスプレイに **A-** と表示されます。



続いて、終わり (B点) にしたいところでもう一度 **[FUNCTION]** を押します。
⇒ 終わり(B点)が設定され、ディスプレイに **A-b** と表示されます。



同時に、A 点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



2. 練習ストップ

A 点、B 点の設定を保持のまま一時練習をストップするときは **[SONG]** **[START/STOP]** を押します。(この場合、再度 **[SONG]** **[START/STOP]** を押すと、再び A 点～ B 点の繰り返し再生がスタートします。)

A 点、B 点の設定を解除するときはもう一度 **[FUNCTION]** を押します。

👉 ピアノ 20 曲を ALL と rnd(P17) で再生しているときは、パートの再生を OFF にすることはできません。

②. 曲の先頭から繰り返しを始めたときは…

再生をスタートする前に **[FUNCTION]** を押して始まり (A 点) を設定します。

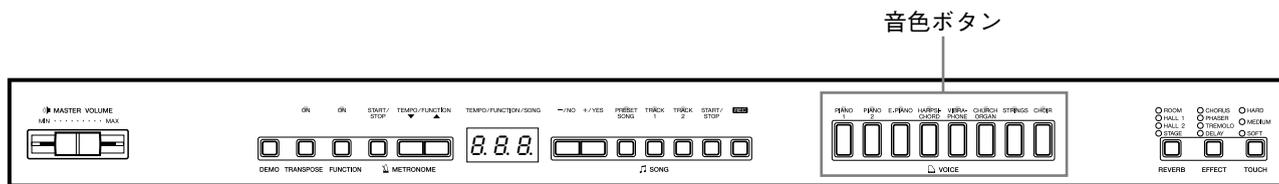
📌 再生の出だいでタイミングをとるためのタクト音が鳴ります。

②. 新しい曲を選ぶと…

A 点、B 点は自動的に解除されます。

音色を楽しむ

音色を選ぶ

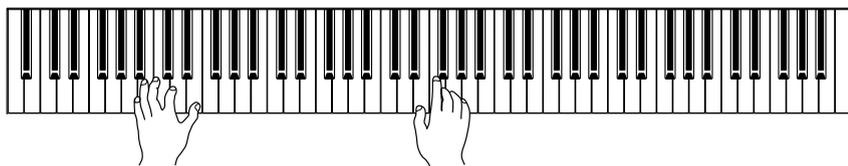


操作

使いたい音色ボタンを押します。

⇒ ランプが点灯します。

[MASTER VOLUME] で音量を調節しながら演奏してください。



音色の特徴をつかむには…

音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(P16)

「音色一覧」(P48) もご参照ください。

音色ボタンの下に印刷されている「VOICE」は、「声」や「音」などの意味があります。

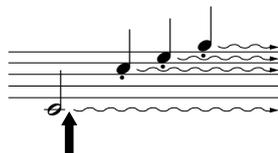
Point。タッチにより音の強弱を付けることができますが、音色によっては音の強弱が付かないものがあります。「音色一覧」(P48) をご参照ください。

ペダルを使う

(ダンパーペダル) と (ソフトペダル) があります。これらはピアノ演奏で使います。

(ダンパーペダル)

[DAMPER] 端子に接続したペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

! **ダンパーペダルが効かない…**
フットスイッチを【DAMPER】端子に確実に差し込んでください。

! フットスイッチを使用するときは、PEDAL 端子にフットスイッチを接続してから電源を入れてください。

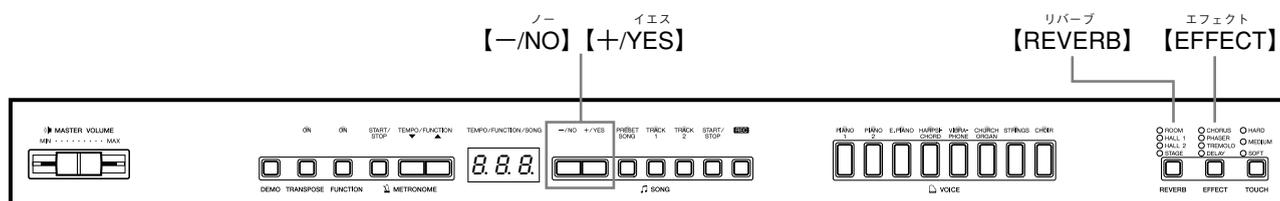
! フットスイッチを踏みながら電源を入れしないでください。踏みながら電源を入れると、オン / オフが逆になります。

(ソフトペダル)

[SOFT] 端子に接続したペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけた音を弾く直前に踏みます。)

Point。ペダルの機能切り替え…
ファンクション (P39) でペダルの機能をパネルの **SONG** (START/STOP) と同じ機能に切り替えることができます。

音に変化を付ける・・・【REVERB】/【EFFECT】



リバーブ 【REVERB】

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ（かかり具合）を変えることもできます。

- OFF**： リバーブはかかりません。
- ROOM**： 部屋の中にあるような響きになります。
- HALL 1**： 小さいコンサートホールにあるような響きになります。
- HALL 2**： 大きいコンサートホールにあるような響きになります。
- STAGE**： ステージにあるような響きになります。

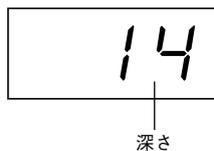
操作

リバーブ【REVERB】を押すごとに種類が切り替わります。
 ⇨ 選ばれている種類のランプが点灯します。どのランプも点灯しないときはOFFです。

【PIANO 1】の音色では、OFFの場合でも、ピアノの響板の響き（サウンドボードリバーブ）を残すようになっています。

深さ（かかり具合）を変える

リバーブ【REVERB】を押している間はディスプレイにリバーブの深さの値が表示されます。
 リバーブ【REVERB】を押したまま [- /NO] または [+ /YES] を押すと、深さの値（0～20）が変わります。



エフェクト 【EFFECT】

音に効果を付け加えます。
 その深さ（かかり具合）を変えることもできます。

- OFF**： エフェクトはかかりません。
- CHORUS**： 広がり感を付けます。
- PHASER**： うねりを持たせます。
- TREMOLO**： 音量を揺らします。
- DELAY**： 反響音を付けます。

Point. 基本設定...

音色ごとにリバーブの種類（OFFも含む）が設定されています。

基本設定とは...

本書では、始めて電源を入れたときの設定のことを「基本設定」と呼んでいます。

Point. リバーブの種類

リバーブの種類は【REVERB】を押して離れたときに切り替わります。【REVERB】を押したまま深さを変更したときは、【REVERB】を離しても種類は切り替わりません。

Point. 深さ

深さ0～20：効果なし～深さ最大

Point. 基本設定...

音色ごとに標準の深さが設定されています。

Point. 基本設定...

音色ごとにエフェクトの種類（OFFも含む）が設定されています。

操作

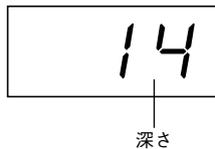
【EFFECT】 を押すごとに種類が切り替わります。

⇒ 選ばれている種類のランプが点灯します。どのランプも点灯しないときは OFF です。

深さ (かかり具合) を変える

【EFFECT】 を押している間はディスプレイにエフェクトの深さの値が表示されます。

【EFFECT】 を押したまま **[- /NO]** または **[+ /YES]** を押すと、深さの値 (0 ~ 20) が変わります。



Point. エフェクトの種類は **【EFFECT】** を押して離れたときに切り替わります。**【EFFECT】** を押したまま深さを変更したときは、**【EFFECT】** を離しても種類は切り替わりません。

Point. 深さ
深さ 0 ~ 20 : 効果なし ~ 深さ最大

Point. 基本設定...
音色ごとに標準の深さが設定されています。

■タッチ感を変える・・・【TOUCH】

弾く強さに対する音の強弱の付き方（タッチ感）を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

HARD ハード : 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティシモまで表現豊かな演奏ができます。

MEDIUM ミディアム : 標準的なタッチです。

SOFT ソフト : 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつぶがそろいやすいタッチです。

FIXED フィックス : タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

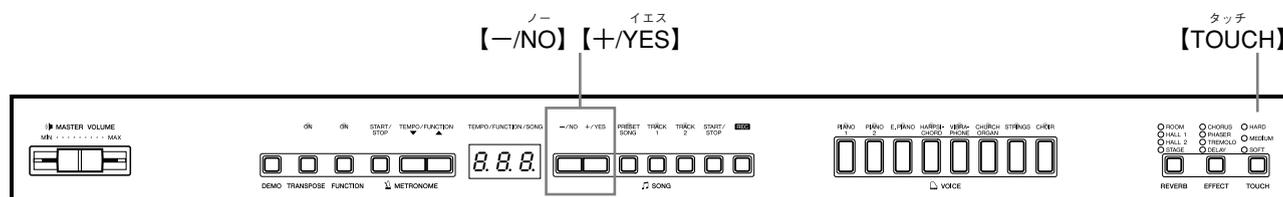
Point. ポイント 鍵盤の重さ自体は変わりません。



HARD = 「強い」
MEDIUM = 「中間の、中位の」
SOFT = 「やさしい、楽な」
FIXED = 「固定された」

Point. ポイント **基本設定...**
 MEDIUM

Point. ポイント タッチの種類は全音色に共通の設定となります。ただし、音色によっては、ここでの設定にかかわらず、タッチによる音の強弱がつかないものもあります。「音色一覧」(P48)をご参照ください。



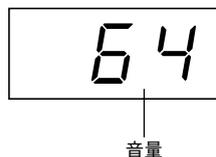
操作

TOUCH タッチ を押しごとに種類が切り替わります。
 ⇨ 選ばれている種類のランプが点灯します。FIXED のときは、どのランプも点灯しません。

フィックス **FIXED** の場合の音量を変える

FIXED フィックス を選んでいるとき（どのランプも点灯していないとき）、**TOUCH** タッチ を押ししている間はディスプレイに音量を示す値が表示されます。

TOUCH タッチ を押したまま **【-/NO】** ノー または **【+/YES】** イエス を押しと、音量を示す値(1～127、基本設定=64)が変わります。



Point. ポイント **タッチ**
 1～127：最小音量～最大音量

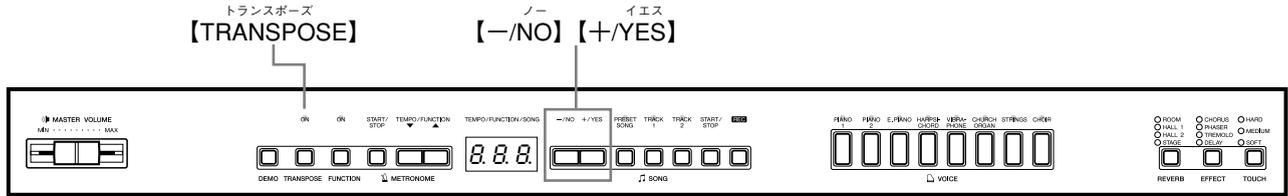
Point. ポイント FIXED フィックス の場合の音量も全音色に共通の設定となります。

Point. ポイント タッチの種類は **【TOUCH】** タッチ を押し離したときに切り替わります。FIXED フィックス の音量を変更したときは、**【TOUCH】** タッチ を離しても種類は切り替わりません (FIXED フィックス のままとなります)。

【キー(調)を変える・・・【TRANSPOSE】】

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を移調したりすることができます。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。

たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。



操作

トランスポーズ
【TRANSPOSE】を押している間はディスプレイにトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。

トランスポーズ
【TRANSPOSE】を押したまま **トランスポーズ** **[- / NO]** または **トランスポーズ** **[+ / YES]** を押し、トランスポーズ量の半音単位の値 (-12 ~ 0 ~ 12、基本設定=0) が変わります。



トランスポーズ量

トランスポーズ
【TRANSPOSE】のランプは、**トランスポーズ**
トランスポーズ **【TRANSPOSE】** を押している間点灯しますが、トランスポーズ量を **トランスポーズ** 0 以外に設定したときは、操作後も引き続き、点灯し続けます。
トランスポーズ 0 以外に設定したあとは、**トランスポーズ** **【TRANSPOSE】** を押しごとに、トランスポーズの ON/OFF を切り替えることができます。

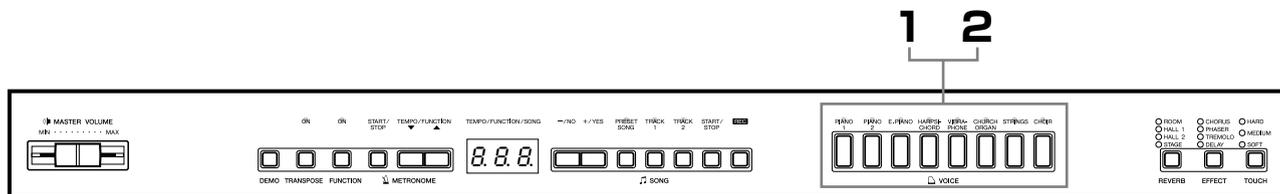
トランスポーズ
📖 **TRANSPOSE : 移調する**
移調：曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。

Point **トランスポーズ量...**
-12 : -12 半音 (-1 オクターブ)
0 : 標準音程
12 : 12 半音 (+1 オクターブ)

Point **トランスポーズをかけた場合の発音域について...**
トランスポーズによって、鍵盤の一番高い部分や一番低い部分はオクターブ下や上の音で発音する場合があります。

2つの音色を混ぜる(デュアル)

2種類の音色を混ぜて使うことができます。2つの音色でメロディをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出したりすることができます。



操作

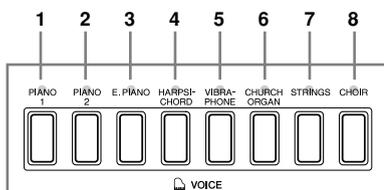
1. デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押します。(または1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押します。)

⇒ 2つの音色ボタンのランプが点灯します。

※ 右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります(もう一方は第2音色)。

優先順位



デュアルでの音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定が「ファンクション F3」(P38)でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2. デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜け、通常の演奏状態に戻ります。

📖 デュアル=2つ

Point デュアルのときの
【REVERB】...

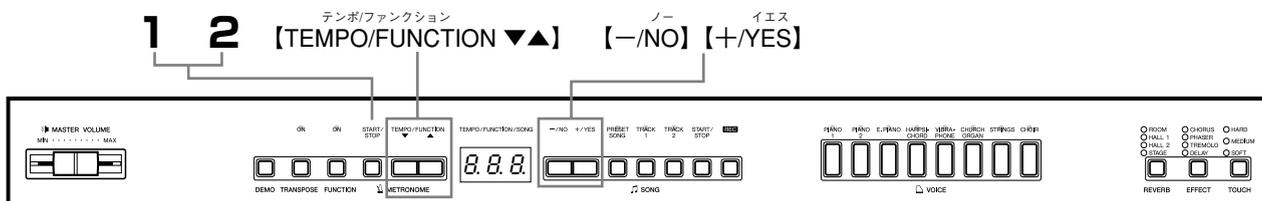
第1音色のリバーブの種類が、優先されます。(OFFの場合は第2音色のものになります。) 深さの調節(【REVERB】を押したまま【-/NO】【+/YES】を押す)は、第1音色にだけ影響します。

Point デュアルのときの
【EFFECT】...

状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。深さは、音色の組み合わせごとに基本設定を持っていますが、「ファンクションF3」(P38)で音色ごとに任意に設定することもできます。 深さの調節(【EFFECT】を押したまま【-/NO】【+/YES】を押す)は、第1音色にだけ影響します。

メトロノームを使う (METRONOME)

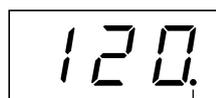
YPP-100 は、メトロノーム（ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具）を備えています。ご使用ください。



操作

1. メトロノームを鳴らす

メトロノーム **METRONOME [START/STOP]** を押します。
 ⇨ メトロノームが鳴り出します。



メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

テンポの調節

テンポ / ファンクション **[TEMPO/FUNCTION ▼ ▲]** を押すとテンポの値 (32 ~ 280 [1 分間の拍数]、基本設定 =120) が変わります。

拍子の設定

メトロノーム **METRONOME [START/STOP]** を押し続けている間はディスプレイに拍子が表示されます。

メトロノーム **METRONOME [START/STOP]** を押したまま ノー **[- /NO]** または イエス **[+ /YES]** を押すと、拍子 (0、2、3、4、5、6、基本設定 =0 [無拍子]) が変わります。



拍子

Point。メトロノームの音量は…
 ファンクション (P39) で設定できます。

2. メトロノームを止める

メトロノーム **METRONOME [START/STOP]** を押します。
 ⇨ メトロノームが止まります。

演奏を録音(記録)する

YPP-100 の録音機能を使ってご自身の演奏を録音する方法を説明します。

練習の中で、ご自身の演奏を録音して聞いてみたり、左手(右手)パートだけ録音しておいて、再生させながら右手(左手)パートを練習したりすることもできます。

また、2つの録音トラックに別々に録音できますので、右手パートと左手パートを分けて録音したり、連弾曲を1パートずつ録音して完成させたりすることもできます。

Point. 別の録音方法・・・

OUTPUT 端子にカセットテープレコーダーなどを接続し、オーディオ録音することもできます。

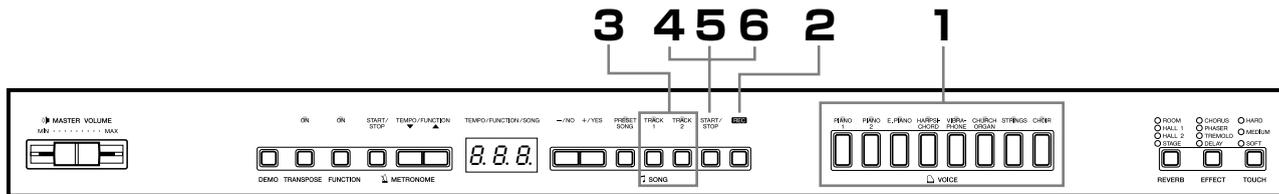
「録音」と「記録」

カセットテープに録音するのと YPP-100 の録音機能を使って録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。

カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、YPP-100 の録音機能では音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで…」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

YPP-100 の録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

最初のトラックに録音する



操作

1. 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

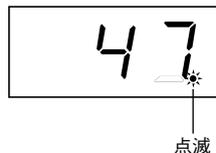
音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(テンポ、リバーブなど)も選んでください。**[MASTER VOLUME]** は弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも **[MASTER VOLUME]** で音量を調節することができます。

2. 録音モードに入る

[REC] を押します。

⇒ **[TRACK1]** または **[TRACK2]** のランプが赤く点灯します。

ディスプレイに記憶残容量の数値(KBの数値)が表示されます。また、右端の点「。」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



録音を中止する場合は、もう一度 **[REC]** を押します。

録音済みのトラックに再録音すると...

すでに録音されているトラックに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

デモ曲 / ピアノ曲(プリセットソング)モードのときは...

録音モードに入ることにはできません。

記憶残容量とは...

録音できるスペースがあとどれだけ残っているかを示す値です。データの量を表す単位KB(キロバイト)で示されます。何も録音されていない場合で、50KB(およそ10,000音符分)となります。

3. 録音トラックを選ぶ

【TRACK1】または【TRACK2】で録音するトラックを選びます。

⇒ ランプが赤く点灯します。

4. 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、SONG【START/STOP】を押すと録音がスタートします。

⇒ ディスプレイに録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



5. 録音をストップする

SONG【START/STOP】または【REC】を押します。

⇒ 録音したトラックのランプが緑に点灯します。(録音モードは自動的に解除されます。)

6. 録音した演奏を聞いてみる

SONG【START/STOP】を押すと、今録音した演奏が再生されます。

もう一度 SONG【START/STOP】を押すと、再生が止まります。

Point. メトロノームを使う…

METRONOME を使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

Point. 録音されるデータの種類については、P30をご覧ください。

Point. ペダルを使ってスタートする…

ファンクション (P39) でペダルをパネルの SONG【START/STOP】と同じ機能に切り替えることができます。そうすると、ペダルで録音をスタートすることができます。

? 録音中に記憶残容量が少なくなってきた場合…

録音中のトラックのランプが赤く点滅しだします。そして記憶残容量がなくなるとディスプレイに「FUL」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。(それまでの演奏データは録音され、残ります。)

? トラックのデータを削除するには…

SONG【START/STOP】で録音をスタートし、何もせず SONG【START/STOP】で録音をストップすると、そのトラックのデータがすべて削除されます。

録音し直す

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

1. 必要に応じて、録音する音色（とそのほかの設定）を選び直す

先に録音したときと設定を変えたい場合に行なってください。

2. 再び録音モードに入る

再び【REC】を押します。

⇒ 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

このあと、上記 4 以降の手順に従って録音します。

曲の途中から録音し直すことはできません。

■ 続いて2つめのトラックに録音する

続いて2つめのトラックに録音する場合の手順を説明します。

1. 録音する音色（とそのほかの設定）を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。

2. 再び録音モードに入る

再び **[REC]** を押します。

⇒ 前に録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

3. 録音トラックを選ぶ

前に録音したトラックと違う方のトラックを選びます。

⇒ ランプが赤く点灯します。(今録音したトラックのランプは緑に点灯します。)

前に録音したトラックのデータを再生させながら録音することができます。

このあと、前記 4 以降の手順 (P29) に従って録音します。

②. 2つめのトラックに別の曲を録音するには…

前に録音したトラックのデータの再生を OFF にして録音します。再び録音モードに入る前(手順 2 の前)に、前に録音したトラックのボタンを押します。

緑のランプが消灯し、再生が OFF になります。

■ 録音（記録）されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音（記録）されるデータがあります。

下記のように「トラックごとに録音されるデータ」と「2つのトラックで共通に録音されるデータ」があります。

トラックごとに録音されるデータ

- ・ ノートデータ（弾いた音） ※1
- ・ 音色
- ・ ダンパーペダルの ON/OFF オン/オフ
- ・ ソフトペダルの ON/OFF オン/オフ
- ・ **[REVERB]** の深さ リバーブ
- ・ **[EFFECT]** の深さ エフェクト
- ・ デュアルの音色
- ・ デュアル音量バランス ※2
- ・ デュアルデチューン ※2
- ・ デュアルオクターブシフト ※2

✎ ※1 初期値(曲の先頭に記録されるデータ)としては記録されません。

✎ ※2 録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。

2つのトラックで共通に録音されるデータ

- ・ テンポ
- ・ 拍子
- ・ **[REVERB]** の種類 (OFF も含む) リバーブ
- ・ **[EFFECT]** の種類 (OFF も含む) エフェクト

■初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する

録音を終えたあとでも、曲の初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更することができます。たとえば、録音したあとで音色を変更して違った雰囲気の曲にしたり、曲を適切なテンポに調節したりすることができます。

以下のデータの初期値を変更することができます。

トラックごとのデータ

- ・音色
- ・ダンパーペダルの ON/OFF^{オン / オフ}
- ・ソフトペダルの ON/OFF^{オン / オフ}
- ・リバーブ^{リバーブ}の深さ
- ・[REVERB] の深さ
- ・エフェクト^{エフェクト}の深さ
- ・デュアルの音色

2つのトラックに共通のデータ

- ・テンポ
- ・拍子
- ・リバーブ^{リバーブ}の種類(OFFも含む)^{オフ}
- ・エフェクト^{エフェクト}の種類(OFFも含む)^{オフ}

1. 録音モードに入り、初期値を変更するトラックを選びます。

➡ ランプが赤く点灯します。(2つのトラックで共通に録音されるデータはどちらのトラックを選んででも変更されます。)

2. 変更したい項目をパネルで操作して変更します。

たとえば、録音した[E. PIANO]の音色を[PIANO 1]に変更したい場合は、ここで[PIANO 1]を押します。^{ピアノ}
ここで鍵盤やSONG [START/STOP]を押さないようご注意ください。録音^{ソング}がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。^{スタート / ストップ}

3. [REC] を押して録音モードを抜けます。

ここでSONG [START/STOP]を押さないようご注意ください。録音^{レコード}がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。^{ソング}

■録音上のご注意

❗ 録音した曲は、電源 OFF 後約 1 週間記憶され続けます。(ただし、次回電源を入れたときは、録音した曲があってもトラックボタンのランプは自動的に緑に点灯しませんので、再生させる場合はトラックボタンを押して緑に点灯させてください。)1 週間以上続けて記憶させる場合は、少なくとも 1 週間以内に数分間は電源を ON にしてください。また、YPP-100 にMIDI データファイラー-MDF3などを接続して演奏データを送信し、曲をディスクに保存しておくこともできます。(「録音データのバルク送信」P41))

❗ 録音済みデータを間違えて消さないようにするために、以下の確認をすると安心です。録音時、レコードモードに入る前に、あらかじめトラックボタンを押してランプの色を確認します。すでに録音データが入っている場合は、ランプが緑に点灯します。録音済みのトラックに再録音すると、古いデータを消して新しく録音しますので、ご注意ください。

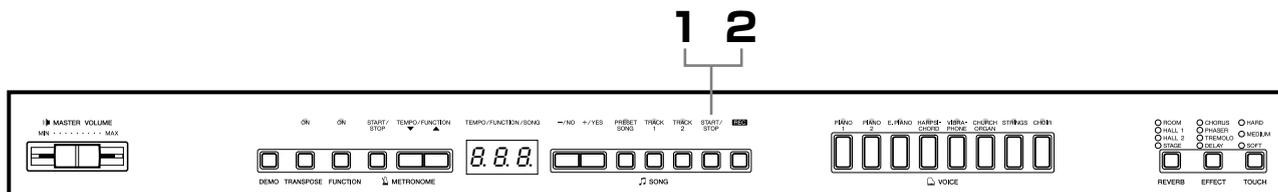
❓ 初期値変更を中止するには…
操作 2 のあと、初期値を変更するトラックを変えて、何もしないで操作 3 で録音モードを抜けると初期値変更は中止されます。(2つのトラックで共通に録音されるデータの変更も中止されます。)

録音した曲を再生する

録音した曲を再生します。再生しながら、ご自身で演奏することもできます。

曲の再生データは、MIDI 送信されません。

再生の手順



操作

1. 再生スタート

SONG [START/STOP] を押すと再生がスタートします。

⇒ ディスプレイにはスタート後、再生中の小節番号が表示されます。



再生しながら、演奏することもできます。この場合、録音された音色とは違う音色をパネルで選ぶと、再生音と違う音色で演奏することができます。

音量の調節

[MASTER VOLUME] で音量を調節します。

テンポの調節

再生スタート前でも再生中でも、[TEMPO/FUNCTION ▼▲] を押してテンポを変更することができます。[▼][▲] を同時に押すと、録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

2. 再生ストップ

曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生の途中でストップする場合は、SONG [START/STOP] を押します。

デモ曲 / ピアノ曲 (プリセットソング) モードのときは…再生できません。

録音データがないときは SONG [START/STOP] を押しても再生はスタートしません。

Point. 「連弾や2台のピアノのための曲の一方のパートを録音し、それを再生しながら自分でもう一方のパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

Point. 再生といっしょにメトロノームを使うこともできます。この場合、再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。

Point. 再生中に [REVERB] の種類を切り替えた場合…再生中に [REVERB] の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音も手弾き音もリバーブの種類が切り替わります。

Point. 再生中に [EFFECT] の種類を切り替えた場合…再生中に [EFFECT] の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音にはエフェクトがかかなくなる場合があります。

再生に関する便利な機能

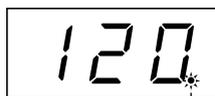
トラックの再生 ON/OFF

録音後は、録音したデータが入っているトラックボタン（**[TRACK1]** **[TRACK2]**）の片方または両方のランプが緑に点灯します。ランプが点灯しているトラックのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのトラックのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生の ON/OFF が切り替わります。

弾くと同時に再生をスタートする（シンクロスタート）

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート（シンクロスタート）することができます。再生 ON のトラックのボタン（**[TRACK1]** または **[TRACK2]**）を押したまま **SONG [START/STOP]** を押すとシンクロスタート待機状態になります。

⇒ ディスプレイの右端の点「。」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



点滅

（もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。）

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。再生しながらご自身も弾く場合、再生とご自身の演奏の出だしを合わせたいときに便利です。

SOFT 端子に接続したフットスイッチでスタート / ストップする

フットスイッチでスタート / ストップすることができます。ファンクション（P39）でフットスイッチの機能をスタート / ストップ（パネルの **SONG [START/STOP]** と同じ機能）に切り替えます。自分が先に弾き出して、途中から再生をスタートさせたいときに便利です。

Point. トラックの再生 ON/OFF の切り替えは…

再生前でも再生中でもできます。両トラックとも再生 OFF にした場合は、再生スタートできません。（または、再生がストップします。）

Point. 再生を OFF にしたパートの音量は…

ピアノ 20 曲では、再生を OFF にしたパートの音量を調節できます（P18、39）が、録音した曲を再生する場合、再生を OFF にしたトラックの音量は 0 に固定です。

? 再生 OFF のトラックのボタンを押したまま **SONG [START/STOP]** を押すと…

そのトラックの再生が ON になると共に、シンクロスタート待機状態になります。

📖 シンクロ＝同時の、同時に起こる

各種の便利な設定をする・・・

ファンクション

【FUNCTION】

YPP-100 では、「音程を微調整」したり、「メトロノームの音量を設定」したりなど、いろいろ便利な設定をすることができます。それらをまとめて「ファンクション」と呼んでいます。

 ファンクション = 機能

まず、ファンクション一覧表を見てください。

ファンクションには大項目が8個（F1～F8）あります。

大項目の中には小項目をいくつか持つものもあります。

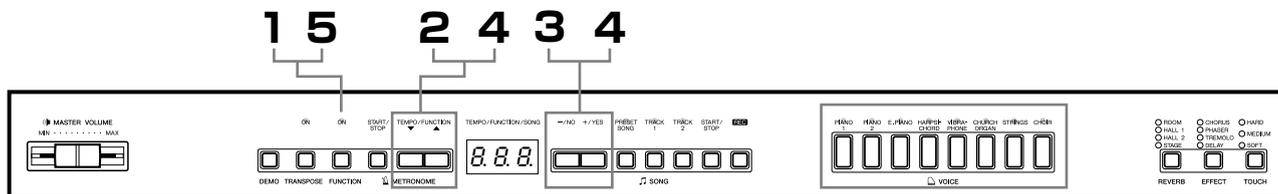
ファンクション一覧

大項目	小項目	ファンクション番号	ページ
音程の微調整	—	F1	37
音律（調律法）の設定	音律（調律法）の種類の設定	F2.1	37
	基音の設定	F2.2	38
デュアルの諸設定	2音色の音量バランスの設定	F3.1	38
	2音色の音程を微妙にずらす設定	F3.2	38
	第1音色のオクターブシフトの設定	F3.3	38
	第2音色のオクターブシフトの設定	F3.4	38
	第1音色のエフェクトの深さの設定	F3.5	38
	第2音色のエフェクトの深さの設定	F3.6	38
	基本設定に戻す操作	F3.7	38
ペダル機能の設定	—	F4	39
メトロノーム音量の設定	—	F5	39
ピアノ20曲のパート再生OFF時の音量設定	—	F6	39
MIDI 機能の諸設定	MIDI 送信チャンネルの設定	F7.1	39
	MIDI 受信チャンネルの設定	F7.2	39
	ローカルコントロール ON/OFF の設定	F7.3	40
	プログラムチェンジ送受信 ON/OFF の設定	F7.4	40
	コントロールチェンジ送受信 ON/OFF の設定	F7.5	40
	MIDI 送信データにトランスポーズをかける設定	F7.6	40
	セットアップデータの MIDI 送信	F7.7	40
	録音データのバルク送信	F7.8	41
バックアップ ON/OFF の設定	音色関連項目のバックアップ設定	F8.1	41
	MIDI 関連項目のバックアップ設定	F8.2	41
	音程、音律関連項目のバックアップ設定	F8.3	41
	その他の項目のバックアップ設定	F8.4	41

ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。

(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)



操作

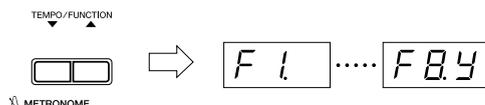
1. ファンクションモードに入る

ファンクション
【FUNCTION】を押します。

⇒ ランプが点灯し、ファンクションモードのディスプレイ **F**** になります。(**のところは、そのときの使用状態によって異なる表示になります。)

2. 大項目を選ぶ

テンポ / ファンクション
【TEMPO/FUNCTION ▼▲】でファンクションの大項目 (F1 ~ F8) を選びます。



3. [- /NO] [+ /YES] で…

小項目がない場合： 直接設定の操作に入ります。

小項目がある場合： イエス 【+ /YES】で小項目を選択する操作に進みます。

4. これ以降の2種類のボタンを使って操作します。

① テンポ / ファンクション 【TEMPO/FUNCTION ▼▲】

大項目または小項目の選択に使います。

② [- /NO] [+ /YES]

大項目または小項目を選んだあと、ON/OFFの設定、種類の設定、数値の設定をします。

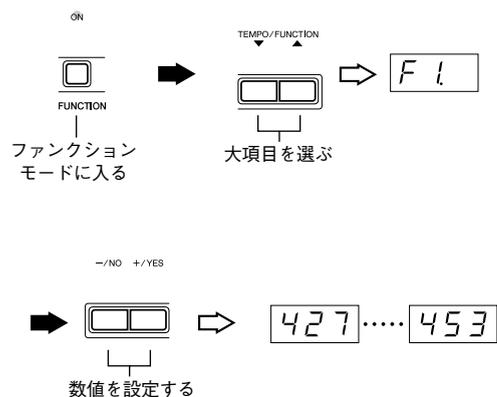
イエス [- /NO] [+ /YES] を同時に押すと基本設定 (= 初めて電源を入れたときの設定) に戻る場合があります。

👉 **デモ曲 / ピアノ曲 (プリセットソング) モードのときと、曲の再生中、録音中は…**
ファンクションモードに入ることはできません。

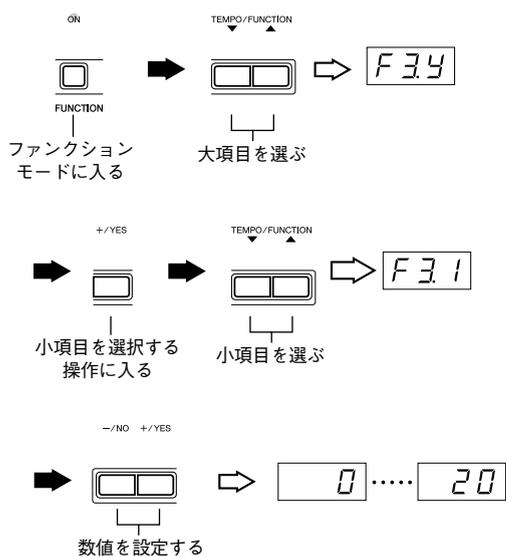
🔍 **手順 2.3.4 でファンクションの操作を中止したいときは…**
ファンクション
【FUNCTION】を押せばいつでもファンクションモードから抜けることができます。

Point 項目を選んだあと、最初に イエス 【- /NO】 イエス 【+ /YES】を押したときは、現在の設定状態 (設定値) が表示されます。

操作例 1 (F1.「音程の微調整」)



操作例 2 (F3.1 [(デュアルの) 2音色の音量バランスの設定])



②。この設定は、デュアルが選ばれていないと「F3-」表示になります。

5. 操作が完了したら...

- ファンクション
【FUNCTION】を押してファンクションモードから抜けます。
⇒ ランプが点灯し、ディスプレイがテンポ表示に戻ります。

各ファンクション項目の説明

F1. 音程の微調整

楽器全体の音程を微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音程を正確に合わせたい場合に使います。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **F1** を選びます。

2. **[- /NO] [+ /YES]** で、**A3** の鍵盤の音程を **Hz** の数値で設定します (約 0.2Hz 単位)。

⇒ **427** **440** **453**

小数点以下の数値は、下記のような点「.」で示されます。

表示	値
440	440.0
440	440.2
440	440.4
440	440.6
440	440.8

設定範囲：

427.0 ~ 453.0 (Hz)

基本設定：

440.0 (Hz)

ヘルプ Hz とは...

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位が **Hz** です。)

F2. 音律 (調律法) の選択

音律 (調律法) を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。

当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

次の7種類の音律 (調律法) が用意されています。

平均律 (Equal Temperament)

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律 (長調) (Pure Temperament) (Major)

純正律 (短調) (Pure Temperament) (minor)

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律 (Pythagorean Temperament)

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律 (Meantone Temperament)

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。

十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律 (Werckmeister)

キルンベルガー音律 (Kirnberger)

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。

バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード (=チェンバロ) などで演奏するときにはしばしば用いられます。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **F24** を選びます。

2. **[+ /YES]** を押して確定し、**[TEMPO/FUNCTION ▼ ▲]** で以下の小項目を選び、**[- /NO] [+ /YES]** で設定します。

小項目

F21 音律 (調律法) の種類の設定

設定範囲：

- 1.....平均律
- 2.....純正律 (長調)
- 3.....純正律 (短調)
- 4.....ピタゴラス音律
- 5.....中全音律
- 6.....ヴェルクマイスター音律
- 7.....キルンベルガー音律

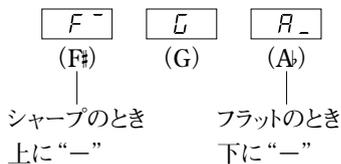
基本設定： 1.....平均律

F22 基音の設定

平均律以外のときは、基音（演奏する曲の調の主音）を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。（平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。）

設定範囲： C, C[#], D, E^b, E, F, F[#], G, A^b, A, B^b, B
基本設定： C

・ 基音表示の例



F3. デュアルの諸設定

デュアルモードでの各種設定をします。
 2音色の音量バランスを調節したりなど、弾く曲に最適な設定を作ることができます。
 音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

1. デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F34** を選びます。

2. **[+ /YES]** を押し確定し、**[TEMPO/FUNCTION]** ▼▲ で以下の小項目を選び、**[- /NO]** **[+ /YES]** で設定します。

👉デュアルモードでないときには…

1. での表示が **F3-** になり、**[+ /YES]** を押ししても反応しません。
 ファンクションモードに入ったあとで、デュアルモードに入ることもできます。

小項目

F31 2音色の音量バランスの設定

設定範囲： 0～20（20に近づくほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量）
基本設定： 音色の組み合わせごと
 片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く混ぜるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

F32 2音色の音程を微妙にずらす設定

設定範囲： -10～0～10（+方向で第1音色の音程が高く、第2音色の音程が低くなる。
 -方向で第2音色の音程が高く、第1音色の音程が低くなる。）

Point. ずらすことができる音の幅は、低音域ほど大きく（E0で±49セント）、高音域ほど小さく（G6で±5セント）なっています。（100セント=1半音です。）

基本設定： 音色の組み合わせごと
 2音色の音の高さを微妙にずらすと音に厚みが出ます。

F33 第1音色のオクターブシフトの設定

F34 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲： -1, 0, 1

基本設定： 音色の組み合わせごと
 音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

F35 第1音色のエフェクトの深さの設定

F36 第2音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲： 0～20

基本設定： 音色の組み合わせごと
 エフェクトの深さを第1音色と第2音色別々に設定します。
 エフェクトが OFF のときは設定できません。（ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。）

・「第1音色」「第2音色」については、P26をご覧ください。

F37 基本設定に戻す操作

[+ /YES] を押し上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

Point. ショートカット操作…

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま **[FUNCTION]** を押し直接ファンクションモードの **F3*** に入ることができます。
 この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作 (**[FUNCTION]** を押し **☞** ランプ点灯) が必要です。

F4. ペダル機能の設定

SOFT 端子に接続したペダルの機能を設定します。基本設定ではソフトペダルとして機能しますが、ここで、曲のスタート/ストップ機能(パネルの **SONG** [START/STOP] と同じ機能) に切り替えることができます。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **F4** を選びます。

2. [-/NO] [+ /YES] で設定します。

設定範囲： 1(ソフトペダル)、2(スタート/ストップ)

基本設定： 1(ソフトペダル)

F5. メトロノーム音量の設定

メトロノームの音量を設定します。

メトロノームの音量を大きくしたいときや、小さくしたいときに使います。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **F5** を選びます。

2. [-/NO] [+ /YES] で設定します。

設定範囲： 1～20

基本設定： 10

Point ショートカット操作…

METRONOME [START/STOP] を押したまま **[FUNCTION]** を押すと直接ファンクションモードの **F5** に入ることができます。

この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作 (**[FUNCTION]** を押す \rightarrow ランプ点灯) が必要です。

F6. ピアノ 20 曲のパート再生 OFF 時の音量設定

YPP-100 に入っているピアノ 20 曲 (プリセットソング) の再生時、再生を OFF にしたパートの音量を設定します。ガイドとして大きく鳴らしたい場合や小さく鳴らしたい場合、あるいはまったく音を鳴らしたくない場合とに応じて、音量を調節してください。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **F6** を選びます。

2. [-/NO] [+ /YES] で設定します。

選択範囲： 0～20

基本設定： 5

F7. MIDI 機能の諸設定

MIDI に関する各種設定 / 操作をします。

MIDI についての簡単なご紹介が「MIDI について」(P43) にあります。ご参照ください。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **F7** を選びます。

2. [+ /YES] を押して確定し、**[TEMPO/FUNCTION** ▼▲] で以下の小項目を選び、[-/NO] [+ /YES] で設定します。

小項目

F71 MIDI 送信チャンネルの設定

MIDI 楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側で MIDI チャンネル (1～16 チャンネル) を合わせておく必要があります。ここで YPP-100 から MIDI データを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲： 1～16、OFF (送信しない)

基本設定： 1

②. デュアルのときの第 2 音色は…

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第 1 音色、右側音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。) ただし、上記設定チャンネルを OFF に設定した場合は送信されません。

🎵 デモ曲 / ピアノ 20 曲 (プリセットソング) の再生データ、録音した曲の再生データは MIDI 送信されません。

F72 MIDI 受信チャンネルの設定

MIDI 楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側で MIDI チャンネル (1～16 チャンネル) を合わせておく必要があります。ここで YPP-100 が MIDI データを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲： ALL、1&2、1～16

基本設定： ALL

Point ALL の場合は…

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部 MIDI 機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。

この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、YPP-100 で受信して再生させることができます。

Point 「1&2」の場合は…

シーケンサーなどの外部 MIDI 機器から 1、2 チャンネルのデータだけを受信し、YPP-100 本体で再生することができます。

Point YPP-100 では、YPP-100 本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ（音色切り替え）などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

 デモ曲 / ピアノ 20 曲（プリセットソング）モード中は、MIDI 受信を行いません。

F 73 ローカルコントロール ON/OFF の設定

通常、YPP-100 の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロール ON」と呼ばれます。「ローカルコントロールを OFF」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても YPP-100 からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データは MIDI 送信されますので、YPP-100 では音を鳴らさずに MIDI 接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールを OFF にします。

選択範囲： ON/OFF

基本設定： ON

 ローカルコントロールを OFF にすると、鍵盤を弾いても本体からは音が出なくなります。

F 74 プログラムチェンジ送受信 ON/OFF の設定

MIDI で送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。

たとえば YPP-100 からプログラムチェンジを送信すると MIDI 接続した外部機器の音色を切り替えることができます。（YPP-100 のパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。）逆に MIDI 接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジを YPP-100 が受信すると、同時に受信している MIDI の演奏データの音色が切り替わります。（このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。）

このプログラムチェンジの送 / 受信ができたほうが便利な場合（=MIDI 接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合）と、できないほうが便利な場合（=MIDI 接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合）があります。音色切り替えを連動させたい場合は ON に、連動させたくない場合は、OFF にします。

Point 各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDI データフォーマット」(P51) をご覧ください。

選択範囲： ON/OFF

基本設定： ON

F 75 コントロールチェンジ送受信 ON/OFF の設定

MIDI で送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。

たとえば YPP-100 からコントロールチェンジを送信すると MIDI 接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。（YPP-100 でダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。）逆に MIDI 接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジを YPP-100 が受信すると、同時に受信している MIDI の演奏データがそれに反応します。（このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。）

このコントロールチェンジの送 / 受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送 / 受信ができたほうが便利な場合は ON に、できないほうが便利な場合は、OFF にします。

Point YPP-100 がコントロールチェンジとして扱える情報については「MIDI データフォーマット」(P51) をご覧ください。

選択範囲： ON/OFF

基本設定： ON

F 76 MIDI 送信データにトランスポーズをかける設定

MIDI 送信データにトランスポーズをかける設定です。（本体のトランスポーズの設定とは連動しません。）

選択範囲： -12 ~ 0 ~ 12（半音単位）

基本設定： 0

F 77 セットアップデータの MIDI 送信

YPP-100 のパネル設定を送信します。

シーケンサーなどに演奏データを録音するとき、演奏データの頭にセットアップデータを録音することにより、再生時に録音した時と同じパネル設定にすることができます。

セットアップデータとは…

YPP-100 のパネル設定状態一式のデータです。

操作

送信するパネル設定にします。

➡ シーケンサーなどと MIDI 接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。

➡ ファンクションモードに入って **F 77** を選びます。

➡ **[+ / YES]** を押すと送信が実行されます。

⇨ **[End]**

Point 送信される「セットアップデータ」の内容…

「MIDI データフォーマット」(P51 パネルデータ詳細) に掲載されている内容が送信されます。

Point.送信したデータの受信方法…

データを送信した機器と YPP-100 を MIDI 接続します。

➡ YPP-100 にデータを送信します。

⇨自動的に YPP-100 がそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。

(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

Point.セッアップデータ MIDI 送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F7B 録音データのバルク送信

MIDI データファイラー MDF3 やシーケンサーなどを YPP-100 に接続し、YPP-100 で録音したデータを MIDI のバルクデータとして送信し、外部に保存しておくことができます。

保存しておいた録音データを再生する場合は、送信した機器から YPP-100 本体にバルクデータを送り戻した上で、通常の再生操作で再生します。

Point.バルクデータとは…

MIDI で、データの種類を表す用語で「データのかたまり」といった意味です。

操作

YPP-100 で演奏を録音します。

➡ MIDI データファイラー MDF3 などと MIDI 接続し、MDF3 など外部機器で録音の準備をします。

➡ ファンクションモードに入って **F7B** を選びます。

➡ **[+ /YES]** を押すと送信が実行されます。

⇨ **End**

Point.バルクデータ送信中は、手弾き音のデータやパネル情報は MIDI 送信されません。また、MIDI 受信を行いません。

Point.送信したデータの受信(送り戻し)方法…

データを送信した機器と YPP-100 を MIDI 接続します。

➡ YPP-100 にデータを送信します。

⇨自動的に YPP-100 がそのデータを受信し、本体内にデータが入ります。(このとき、本体内にあったデータは消されます。)

このあと、通常の再生操作で再生できます。

(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

Point.デモ曲モードのとき、ピアノ曲(プリセットソング)モードのとき、ファンクションモードのとき、録音モードのときと再生中は、バルクデータ受信はできません。

Point.バルクデータ送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F8. バックアップ ON/OFF の設定

Point.バックアップとは…

ご自身で設定した音色選択や、リバーブのタイプなどをはじめとする設定内容を、電源を切っても消さずに残しておくことを言います。

バックアップを ON にしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。

バックアップを OFF にしておくと、電源を OFF にした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには基本設定 (= 初めて電源を入れたときの設定) に戻ります。(基本設定一覧が P50 に掲載されています。)

ただし「本体内に録音された演奏データ」、ここでの「バックアップ ON/OFF の設定」自体は常にバックアップされます。

! バックアップの設定を ON にしていても、電源を切つて約 1 週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定 (= 初めて電源を入れたときの設定) に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を 1 週間以上保持したい場合は、少なくとも 1 週間以内に数分間は電源を ON にしてください。

機能グループごと(以下の小項目ごと)にバックアップの ON/OFF を設定します。

1. ファンクションモードに入り、大項目 **F8Y** を選びます。
2. **[+ /YES]** を押して確定し、**[TEMPO/FUNCTION]** で以下の小項目を選び、**[- /NO]** **[+ /YES]** で設定します。

小項目

F8.1 音色関連項目のバックアップ設定

F8.2 MIDI 関連項目のバックアップ設定

F8.3 音程、音律関連項目のバックアップ設定

F8.4 その他の項目のバックアップ設定

設定範囲: ON/OFF

基本設定: OFF (すべてのグループ)

・各小項目の内容

F8.1 音色関連項目のバックアップ設定

- ・音色選択
- ・デュアルモードの ON/OFF と音色
- ・デュアルの諸設定 (**F3*** の設定内容) (音色の組み合わせごと)
- ・リバーブの種類と深さ (音色ごと)
- ・エフェクトの種類と深さ (音色ごと)
- ・タッチの設定 (FIXED 時の音量も含む)
- ・メトロノームの拍子と音量 (音量は、**F5** の設定内容)
- ・ピアノ20曲のパート再生 OFF 時の音量設定 (**F6** の設定内容)

F8.2 MIDI 関連項目のバックアップ設定

MIDI 機能の諸設定 (**F7.1** から **F7.5** の設定内容)

F8.3 音程、音律関連項目のバックアップ設定

- ・トランスポーズの設定
- ・音程の微調整 (**F1** の設定内容)
- ・音律 (調律法) の種類と基音の設定 (**F2*** の設定内容)

F8.4 その他の項目のバックアップ設定

- ・フットペダル機能の設定 (**F4**)

基本設定 (= 初めて電源を入れたときの設定) に戻すには…

いったん電源を OFF にし、右端の鍵盤 (G6) を押したまま電源を ON にします。

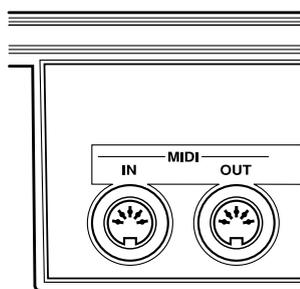
この操作でいつでも基本設定 (= 初めて電源を入れたときの設定) に戻すことができます。(ここでの「バックアップ ON/OFF の設定」も含めたすべての項目が基本設定に戻ります。また、本体内に録音された演奏データも消えます。)(基本設定一覧が P50 に掲載されています。)

ミディ MIDI について

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) とは、MIDI 端子を備えた MIDI 機器間や、MIDI 機器とパーソナルコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

MIDI 機器間 (MIDI 機器とパーソナルコンピューター間) で MIDI データを送受信することにより、YPP-100 から外部の MIDI 機器の演奏をコントロールしたり、外部の MIDI 機器やパーソナルコンピューターから YPP-100 をコントロールしたりすることができます。

ミディ MIDI 端子



MIDI [IN] : MIDI データを受信する端子です。
MIDI [OUT] : MIDI データを送信する端子です。

ミディ MIDI ケーブル

専用の MIDI ケーブルをご用意ください。

Point MIDI では、演奏データや命令を、数値に置き替えたデータで送受信します。

Point MIDI 機器の中でも、機種ごとに送受信できる MIDI データの内容が同じではないため、接続している MIDI 機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることとなります。共通に扱えるデータや命令は、各機種の「MIDI インプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。YPP-100 の MIDI インプリメンテーションチャートは P54 に掲載されています。

Point YAMAHA MIDI ケーブル...

MIDI01 (長さ 1m、税別価格: 800円)
MIDI03 (長さ 3m、税別価格: 1,100円)
MIDI15 (長さ 15m、税別価格: 3,000円)

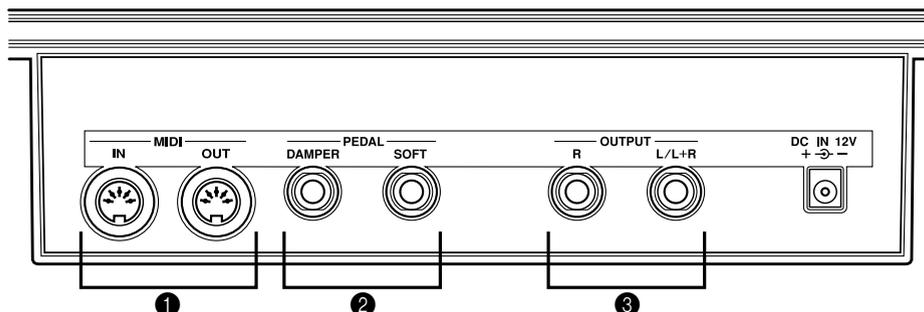
Point MIDI についての詳しい知識は、各種の音楽雑誌や書籍で得ることができます。

他の機器と接続する

端子について



外部の機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電または機器の損傷のおそれがあります。



① MIDI [IN] [OUT] 端子

MIDI 接続専用のケーブルを使って外部 MIDI 機器と接続する端子です。(MIDIについては「MIDIについて」(P43)をご覧ください。)

② PEDAL [DAMPER] [SOFT] 端子

フットスイッチを接続する端子です。

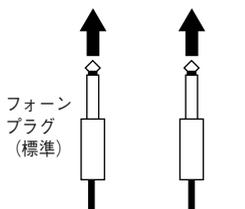
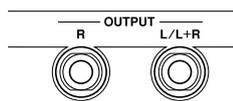
③ OUTPUT [R]、[L/L+R] 端子

YPP-100 をステレオなどに接続してより大きな音を出したり、カセットテープレコーダーなどに接続して演奏を録音したりできます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。YPP-100 の [MASTER VOLUME] ではなく、ステレオ/カセットテープレコーダーなどの入力側で調節してください。



YPP-100 の OUTPUT を使う場合、電源を入れるときは YPP-100 → 外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器 → YPP-100 の順に行ってください。

YPP-100本体



アンプ内蔵スピーカーへ

YPP-100の [MASTER VOLUME] でオーディオ機器から出る音の音量を調節する (標準ジャック)

オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

[MASTER VOLUME] は OUTPUT には効きません。

モノ出力には、OUTPUT [L/L+R] をご使用ください。

■ パーソナルコンピューターと接続する

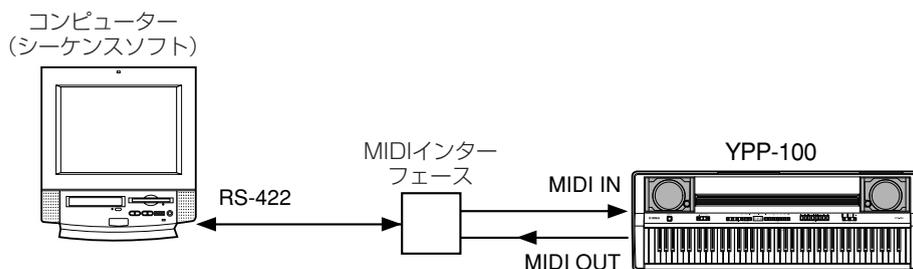
YPP-100 の MIDI 端子とパソコン（パーソナルコンピューター）を接続すると、パソコン用の音楽ソフトを楽しむことができます。コンピューター側に取り付けた MIDI インターフェイス機器を使用して、コンピューターと YPP-100 の MIDI 端子を接続します。

接続に使用するケーブルは、専用の MIDI ケーブルをご使用ください。

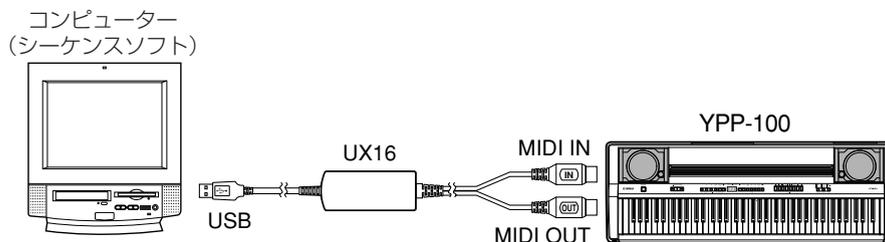
● コンピューターと YPP-100 の MIDI 端子を接続します。



● Macintosh シリーズに MIDI インターフェイス（別売）を使用する場合は、コンピューターの RS-422 端子（モデムまたはプリンター端子）に MIDI インターフェイスを下図のように接続します。MIDI インターフェイスと YPP-100 は専用の MIDI ケーブル（別売）で接続します。



● USB 端子付属のコンピューターと YPP-100 を接続する場合は、ヤマハ UX16 のような「USB MIDI インターフェイス」が必要になります。



Macintosh シリーズをお使いの場合、使用する MIDI インターフェイスの設定に合わせて、アプリケーションソフトウェア側で、MIDI インターフェイスのクロックを設定してください。詳しくは、お使いになるソフトウェアの説明書をよくお読みください。

故障かな？と思ったら

現象	考えられる原因	解決法
YPP-100 の電源が入らない。	電源アダプターが接続されていません (本体側と家庭用コンセント側)。	電源アダプターを接続してください。(P10)
YPP-100 から雑音が出る。	YPP-100 の近くで携帯電話を使っています (または呼び出し音が鳴っています)。	YPP-100 の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。YPP-100 の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	<small>マスター ボリューム</small> 【MASTER VOLUME】が下がっています。	<small>マスター ボリューム</small> 【MASTER VOLUME】を上げてください。(P10)
	ヘッドフォンが接続されています。	ヘッドフォンを抜いてください。(P11)
	ローカルコントロールが <small>オフ</small> OFF になっています。	ローカルコントロールを <small>オン</small> ONにしてください。(P40)
ダンパーペダルが効かない、またはダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう。	フットスイッチが正しく差し込まれていません。	フットスイッチを正しく差し込んで電源を入れ直してください。
	電源を入れるとき、フットスイッチが踏まれています。	電源を入れるとき、フットスイッチを踏まないでください。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。

Point ディスプレイに **5c7** が表示された場合は、YPP-100 の内部に異常がありますので、お買い上げの楽器店か、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点までご連絡ください。

付 録

● 「音色一覧」などの資料を掲載しています。

音色一覧.....	48
デモ曲一覧.....	49
ピアノ 20曲一覧.....	49
基本設定一覧.....	50
MIDI データフォーマット.....	51
キーボードスタンドの組み立てかた.....	55
別売品のご紹介.....	55
仕様.....	60
索引.....	61
保証とアフターサービス.....	63

音色一覧

	ステレオ /モノ	タッチ による 音の強弱	音色のご紹介
PIANO 1 (ピアノ 1)	ステレオ	○	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。ダイナミックサンプリング(※1)、ダンパーペダル使用時の音色変化、鍵盤を離したときの微妙な発音まで、アコースティックピアノに極限まで近づけたぜいたくな音作りです。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
PIANO 2 (ピアノ 2)	ステレオ	○	ロック、ポピュラー音楽に適した、明るく広がりのあるピアノ音。
E.PIANO (エレクトリックピアノ)	モノ	○	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音。弱く弾いた時は柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
HARPSICHORD (ハープシコード)	ステレオ	—	バロック音楽でよく使われる楽器。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離したときには独特の発音があります。
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	ステレオ	○	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音。強く弾くほど金属的な音になります。
CHURCH ORGAN (チャーチオルガン)	ステレオ	—	賛美歌の伴奏などに適した、柔らかい音のパイプオルガン。
STRINGS (ストリングス)	ステレオ	○	大編成弦楽アンサンブルの音。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
CHOIR (クワイア)	ステレオ	○	空間に広がる心和む合唱の音。スローな曲で和音の広がりが見られます。

※1 ダイナミックサンプリングとは・・・

鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしたものです。よりピアノらしいダイナミックな表現を実現します。

デモ曲一覧

デモ曲

音色	曲名	作曲者
PIANO 1 (ピアノ 1)	夜想曲第2番変ホ長調 (Nocturne Op-9-2)	F.F.Chopin
PIANO 2 (ピアノ 2)	ヤマハオリジナル	H.Fujita
E. PIANO (エレクトリックピアノ)	ヤマハオリジナル	H.Fujita
HARPSICHORD (ハープシコード)	かっこう (Le Coucou)	L-C.Daquin
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	ヤマハオリジナル	H.Fujita
CHURCH ORGAN (チャーチオルガン)	オルガン協奏曲第2番 (Organ Concerto Op.4 No.2)	G.F.Händel
STRINGS (ストリングス)	ブランデンブルグ協奏曲第3番 (Brandenburgisches Konzert No.3)	J.S.Bach
CHOIR (クワイア)	カンタータ 140 番より 「目覚めよ！」 (Kantate Nr.140)	J.S.Bach

・上記デモ曲の中には、原曲から編集 / 抜粋しているものもあります。

ピアノ 20 曲一覧

ピアノ 20 曲

	曲名	作曲者
1	アラベスク 第1番	C.A.Debussy
2	ヘ調のメロディ	A.G.Rubinstein
3	雨だれの前奏曲	F.F.Chopin
4	夜想曲第2番変ホ長調	F.F.Chopin
5	子犬のワルツ	F.F.Chopin
6	ワルツ第9番「告別」	F.F.Chopin
7	「月光」第一楽章	L.v.Beethoven
8	革命のエチュード	F.F.Chopin
9	トロイメライ	R.Schumann
10	メヌエット長調	W.A.Mozart

	曲名	作曲者
11	前奏曲(平均率第1巻第1番)	B.S.Bach
12	トルコ行進曲	W.A.Mozart
13	即興曲 作品90 第2番	F.P. Schubert
14	楽興の時 第3番	F.P. Schubert
15	春の歌	J.L.F. Mendelssohn
16	月の光	C.A.Debussy
17	アラベスク	J.F.Burgmüller
18	貴婦人の乗馬	J.F.Burgmüller
19	エリーゼのために	L.v.Beethoven
20	愛の夢 第3番	F.Liszt

基本設定一覧

基本設定 (= 初めて電源を入れたときの設定) を一覧にしました。

項目	基本設定値	バックアップグループ
音色選択	<small>ピアノ</small> PIANO 1	F8.1
デュアル機能	<small>オフ</small> OFF	
リバーブの種類	音色ごと	
リバーブの深さ	音色ごと	
エフェクトの種類	音色ごと	
エフェクトの深さ	音色ごと	
タッチの種類	<small>ミディアム</small> MEDIUM	
タッチが <small>フィックス</small> FIXED のときの音量	80	
メトロノーム	<small>オフ</small> OFF	—
メトロノームの拍子	0 (無拍子)	F8.1
テンポ	120	—
トランスポーズ	0	F8.3

「—」の項目はバックアップはありません。

ファンクションの基本設定

項目	基本設定値	バックアップグループ	
音程	A3=440Hz	F8.3	
音律	1 (平均律)		
基音	C		
デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごと	F8.1	
デュアル 音程のずらし方の設定	音色の組み合わせごと		
デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごと		
デュアル エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと		
ペダル機能	1 (ソフトペダル)	F8.4	
メトロノーム音量	10	F8.1	
ピアノ 20 曲のパート再生 <small>オフ</small> OFF 時の音量	5		
<small>ミディ</small> MIDI 送信チャンネル	1	F8.2	
<small>ミディ</small> MIDI 受信チャンネル	<small>オール</small> ALL		
ローカルコントロール	<small>オン</small> ON		
プログラムチェンジ送受信	<small>オン</small> ON		
コントロールチェンジ送受信	<small>オン</small> ON		
<small>ミディ</small> MIDI トランスポーズ量	0		
バックアップの設定	<small>すべてオフ</small> すべて OFF		*

「*」の項目は常にバックアップされます。

ミディ MIDI データフォーマット

1. ノートオン/ オフ

[9nH] → [kkH] → [vvH]

9nH = ノートオン / オフ イベント (n = チャンネル No.)

kkH = ノート No.

(送信: 10H ~ 73H = E-1 ~ G7)

(受信: 00H ~ 7FH = C-2 ~ G8) * 1

vvH = ベロシティ

(ノートオン = 01H ~ 7FH, ノートオフ = 00H)

[8nH] → [kkH] → [vvH] (受信のみ)

8nH = ノートオフ (n = チャンネル No.)

kkH = ノート No. (00H ~ 7FH = C-2 ~ G8)

vvH = ベロシティ

* 1 ただし音色によって発音可能範囲を超えた場合は、オクターブ単位で折り返して発音します。

2. コントロールチェンジ

[BnH] → [ccH] → [vvH]

BnH = コントロール・チェンジ (n = チャンネル No.)

ccH = コントロール No.

vvH = コントロール値

1) バンク選択

ccH パラメーター 値 (vvH)

00H バンク選択 MSB 00H: ノーマル

20H バンク選択 LSB 00H ~ 7FH

* プログラムチェンジを受信するまで、バンク選択の処理は保留されます。

2) メインボリューム (受信のみ)

ccH パラメーター 値 (vvH)

07H ボリューム 00H ~ 7FH

3) エクスプレッション

ccH パラメーター 値 (vvH)

0BH エクスプレッション 00H ~ 7FH

4) ダンパーペダル

ccH パラメーター 値 (vvH)

40H ダンパー 00H ~ 7FH

5) ソステヌートペダル

ccH パラメーター 値 (vvH)

42H ソステヌート 00H ~ 3FH: オフ、

40H ~ 7FH: オン

6) ソフトペダル

ccH パラメーター 値 (vvH)

43H ソフトペダル 00H ~ 3FH: オフ、

40H ~ 7FH: オン

7) エフェクト1 デプス (リバーブ・センドレベル)

ccH パラメーター 値 (vvH)

5BH エフェクト1 デプス 00H ~ 7FH

* リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定します。

8) エフェクト4 デプス (バリエーション・エフェクト・センドレベル)

ccH パラメーター 値 (vvH)

5EH エフェクト4 デプス 00H ~ 7FH

3. モード・メッセージ

[BnH] → [ccH] → [vvH]

BnH = コントロール・イベント (n = チャンネル No.)

ccH = モード・メッセージ No.

vvH = モード・メッセージ値

1) オール・サウンド・オフ

ccH コントローラー 値 (vvH)

78H オール・サウンド・オフ 00H

* 該当チャンネルの発音中の音を、すべて消音します。ただし、ノートオンやホールドオンなどのチャンネルメッセージの状態は保持します。

2) リセット・オール・コントローラー

ccH コントローラー 値 (vvH)

79H リセット・オール・コントローラー 00H

* 以下のようにリセットされます。

コントローラー 設定値

エクスプレッション 127 (最大)

サステインペダル 0 (オフ)

ソステヌート 0 (オフ)

ソフトペダル 0 (オフ)

3) ローカルコントロール (受信のみ)

ccH コントローラー 値 (vvH)

7AH ローカルコントロール 00H (オフ)、7FH (オン)

4) オール・ノート・オフ

ccH コントローラー 値 (vvH)

7BH オール・ノート・オフ 00H

* 該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフにします。ただし、ダンパーもしくはソステヌートがオンの場合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

5) オムニ・オフ (受信のみ)

ccH コントローラー 値 (vvH)

7CH オムニ・オフ 00H

* オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

6) オムニ・オン (受信のみ)

ccH コントローラー 値 (vvH)

7DH オムニ・オン 00H

* オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

7) モノ (受信のみ)

ccH コントローラー 値 (vvH)

7EH モノ 00H

* オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

8) ポリ (受信のみ)

ccH コントローラー 値 (vvH)

7FH ポリ 00H

* オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

◆補足

1. ファンクションでコントロールチェンジ ON/OFF が OFF されているときは、コントロールチェンジは送受信されません。ただし、Bank MSB/LSB、モードメッセージを除きます。

2. ローカル・オン / オフ、オムニ・オン / オフは送信しません。(オール・ノート・オフは、送信時もノート・オフ数を合わせます。)

3. ボイス・バンク (MSB、LSB) 受信時は、順番に関係なく受け付けた番号を内部バッファに保存し、プログラムチェンジを受信した時点のバッファ値を用いて実際の音色を決めます。

4. 本機は常にマルチティンバー・モード、ポリ・モードであり、オムニ・オン / オムニ・オフ / モノ / ポリ・モードを受信しても、モードは変わりません。

4. プログラムチェンジ

[CnH] → [ppH]

CnH = プログラムチェンジ (n = チャンネル No.)

ppH = プログラムチェンジ No.

* ファンクションでプログラムチェンジ ON/OFF が OFF されているときは、プログラムチェンジは送受信されません。Bank MSB/LSB も送受信されません。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては、<付表1>をご参照ください。

5. システム・リアルタイム・メッセージ

1) アクティブ・センシング

[FEH]

* 200msec ごとに送信します。

* 一度 FEH を受信した後、約 400msec 以上 MIDI から信号がない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノート・オフ、リセット・オール・コントローラーを受信したときと同じ処理をします。

2) クロック

[F8H]

* 96 分タイミングで送信します。

* エクスクルーシブ・メッセージでクロックがエクスターナルにセットされた場合に、96 分タイミングとして受信します。

3) スタート

[FAH]

* レコーダースタート時に送信します。

* 受信するとソングがスタートします。

* クロックが Internal に設定されているときは受信しません。

4) ストップ

[FCH]

* レコーダーストップ時に送信します。

* 受信するとソングがストップします。

* クロックが Internal に設定されているときは受信しません。

* MIDI 受信時にエラーが起こったときは、全チャンネルのダンパー、ソステヌート、ソフト効果をオフし、オール・ノート・オフします。

<付表1>

各音色のプログラムチェンジナンバー

P.C.#=Program Change number

	MSB	LSB	P.C.#
PIANO 1	0	112	0
PIANO 2	0	112	1
E.PIANO	0	112	4
HARPSICHORD	0	112	6
VIBRAPHONE	0	112	11
CHURCH ORGAN	0	112	19
STRINGS	0	112	48
CHOIR	0	112	52

6. システム・エクスクルーシブ・メッセージ (ヤマハ MIDI フォーマット)

[F0H] → [43H] → [0nH] → [7CH] → → [F7H]

F0H,43H,0nH,7CH : n = チャンネル No.
00H,2DH : データ長
43H,4CH,20H,20H : CL
59H,50H,50H,27H,30H,31H : YPP*01
30H,30H : (バージョンx,y)
[パネルデータ]
[チェックサム (1バイト)] = 0 - 43H + 4CH + 20H + + データエンド
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

[パネルデータ詳細]

- (1) 1st Voice
- (2) Dual On/Off
- (3) Dual Voice
- (4) Dual Balance
- (5) Dual Detune
- (6) Dual Voice1 Octave
- (7) Dual Voice2 Octave
- (8) Dual Voice1 Effect Depth
- (9) Dual Voice2 Effect Depth
- (10) Split On/Off
- (11) Split Voice
- (12) Split Point
- (13) Split Balance
- (14) Split Voice1 Octave
- (15) Split Voice2 Octave
- (16) Split Voice1 Effect Depth
- (17) Split Voice2 Effect Depth
- (18) Split Dumper Mode
- (19) Reverb Type 1
- (20) Reverb Type 2
- (21) Reverb Depth1
- (22) Reverb Depth2
- (23) Effect Type 1
- (24) Effect Type 2
- (25) Effect Depth
- (26) Touch Sensitivity
- (27) Fixed Data
- (28) Left Pedal (Soft/Start)
- (29) テンポ (絶対値 下位 byte)
- (30) テンポ (絶対値 上位 byte)

※ パネルデータ送信要求は受信しません。

7. システム・エクスクルーシブ・メッセージ (ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ)

1) ユニバーサル・リアルタイム・メッセージ

[F0H] → [7FH] → [XnH] → [04H] → [01H] → [ℓ ℓ H]
→ [mmH] → [F7H]

MIDI マスターボリューム

※ 全チャンネルの音量が一度に変化します。
※ MIDI マスター・ボリュームを受信したときは、MIDI 入力チャンネルのみに効果があり、パネルのボリュームは変化しません。

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7FH : ユニバーサル・リアルタイム
7FH : ターゲットデバイスの ID
04H : サブ ID #1 (機種コントロール・メッセージ)
01H : サブ ID #2 (マスターボリューム)
ℓ ℓ H : ボリューム LSB
mmH : ボリューム MSB
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7FH : ユニバーサル・リアルタイム
XnH : Xは無視、nは0～Fを受信
04H : サブ ID #1 (機種コントロール・メッセージ)
01H : サブ ID #2 (マスターボリューム)
ℓ ℓ H : ボリューム LSB
mmH : ボリューム MSB
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

2) ユニバーサル・ノン・リアルタイム・メッセージ (GM ON)

[F0H] → [7EH] → [XnH] → [09H] → [01H] → [F7H]

ジェネラル MIDI モード・オン

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7EH : ユニバーサル・ノン・リアルタイム
7FH : ターゲットデバイスの ID
09H : サブ ID #1 (ジェネラル MIDI メッセージ)
01H : サブ ID #2 (ジェネラル MIDI オン)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7EH : ユニバーサル・ノン・リアルタイム
XnH : Xは無視、nは0～Fを受信
09H : サブ ID #1 (ジェネラル MIDI メッセージ)
01H : サブ ID #2 (ジェネラル MIDI オン)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

※ オンを受信することにより、MIDI がリセットされて初期状態になります。このメッセージの実行には、約 50msec かかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。

8. システム・エクスクルーシブ・メッセージ (XG 規格)

1) XG ネイティブ・パラメーター・チェンジ

[F0H] → [43H] → [0nH] → [4CH] → [hhH] → [mmH]
→ [ℓ ℓ H] → [ddH] → → [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
43H : ヤマハ
1nH : n = CLPからの送信時は常に0、受信時は0～F
4CH : XG モデル ID
hhH : アドレス High
mmH : アドレス Mid
ℓ ℓ H : アドレス Low
ddH : データ
! : !
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

※ データサイズはパラメーターのサイズに一致する必要があります。
※ XG システム・オンを受信することにより、MIDI がリセットされて初期状態になります。このメッセージの実行には、約 50msec かかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。

2) バルクダンプ (受信のみ)

[F0H] → [43H] → [0nH] → [4CH] → [aaH] → [bbH]
→ [hhH] → [mmH] → [ℓ ℓ H] → [ddH] → → [ccH] → [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
43H : ヤマハ
0nH : n = YPPからの送信時は常に0、受信時は0～F
4CH : XG モデル ID
aaH : バイト・カウント
bbH : バイト・カウント
hhH : アドレス High
mmH : アドレス Mid
ℓ ℓ H : アドレス Low
ddH : データ
! : !
ccH : チェック・サム
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

※ XG システム・オンを受信すると、必要なパラメーター、コントロール・チェンジ等リセットし、初期状態になります。このメッセージの実行には、約 50msec かかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。

※ XG ネイティブ・パラメーター・チェンジで、データサイズが2または4のパラメーターは、そのサイズ分のデータを送信します。

※ XG バルクダンプのアドレスおよびバイトカウントは、付表 2 の「MIDI パラメーター・チェンジ表 (システム)」を参照してください。付表中トータルサイズで区切られたデータシリーズが一つのバルクになり、そのシリーズの先頭アドレス (00H、00H、00H) のみバルクデータのアドレスとして有効です。

<付表 2>

MIDI パラメーター・チェンジ表 (システム)

アドレス (H)	サイズ (H)	データ (H)	パラメーター	記述	初期値 (H)	
00 00 00	4	020C ~ 05F4	マスター・チューン	-50 ~ +50 [セント]	00 04 00 00	※ 020CH 以下の値は -50 セントになります。 05F4H 以上の値は +50 セントになります。
01				1st ビット 3 ~ 0 → ビット 15 ~ 12	400	
02				2nd ビット 3 ~ 0 → ビット 11 ~ 8		
03				3rd ビット 3 ~ 0 → ビット 7 ~ 4		
				4th ビット 3 ~ 0 → ビット 3 ~ 0		
04	1	00 ~ 7F	マスター・ボリューム	0 ~ 127	7F	
05	1					
06	1	34 ~ 4C	トランスポーズ	-12 ~ +12 [セミトーン]	40	※ 28H ~ 33H の値は -12 ~ -1 に折り返ります。 4DH ~ 58H の値は +1 ~ +12 に折り返ります。
7E		0	XG システム・オン	00 = XG システム・オン		
7F		0	オール・パラメーター・リセット	00 = オン (受信のみ)		
トータルサイズ	07					

<付表 3>

MIDIパラメーター・チェンジ表 (エフェクト 1)

※ リバース、コーラス、バリエーション・タイプのナンバーは、エフェクト MIDI マップを参照してください。

アドレス (H)	サイズ (H)	データ (H)	パラメーター	記述	初期値 (H)
02 01 00	2	00 ~ 7F 00 ~ 7F	リバース・タイプ MSB リバース・タイプ LSB	エフェクト MIDI マップを参照 00: ベーシック・タイプ	01 (= ホール 1) 00
02 01 40	2	00 ~ 7F 00 ~ 7F	バリエーション・タイプ MSB バリエーション・タイプ LSB	エフェクト MIDI マップ参照 00: ベーシック・タイプ	00 (= エフェクトなし) 00

注意: ここでいうバリエーション・エフェクトとは、本機のパネルのエフェクトに相当します。

<付表 4>

MIDIパラメーター・チェンジ表 (マルチパート)

アドレス (H)	サイズ (H)	データ (H)	パラメーター	記述	初期値 (H)
08 nn 11	1	00 ~ 7F	ドライレベル	0 ~ 127	7F

<付表 5>

エフェクト MIDI マップ (Reverb)

	MSB	LSB
ROOM	02H	10H
HALL1	01H	10H
HALL2	01H	11H
STAGE	03H	10H

<付表 6>

エフェクト MIDI マップ (Effect)

	MSB	LSB
CHORUS	42H	10H
PHASER	48H	10H
TREMOLO	42H	12H
DELAY	05H	10H

9. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(クラビノーバ MIDI 準拠)

[F0H] → [43H] → [73H] → [xxH] → [nnH] → [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
 43H : ヤマハ
 73H : YPP ID
 01H : 機種 ID (YPP-100 : 67H または YPP 共通)
 nnH : サブステータス
 コントロール nn
 内部クロック 02H
 外部クロック 03H
 バルクデータ 06H (06Hの後にバルクデータが続く)
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

※ nn=02H,03Hの機種 ID は、機種 (50H) の代わりに、YPP 共通 ID (01H) がきても受け付けます。

シーケンスデータバルクダンブ

F0H,43H,73H
 7F,xxH : 機種 ID (6BH)
 06H : バルク ID
 05H : シーケンスデータ
 0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH : データレンジ
 [バルクデータ]
 [チェックサム (1 バイト)] : 0 - sum (バルクデータ)
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

10. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(特殊操作子)

[F0H] → [43H] → [73H] → [xxH] → [11H] → [0nH]
 → [ccH] → [vvH] → [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
 43H : ヤマハ
 73H : YPP ID
 xxH : 機種 ID
 11H : SK 特殊操作子
 0nH : コントロール MIDI チェンジ (n=特殊操作子チャンネル No.)
 cc : コントロール No.
 vv : 値
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

コントロール オン ccH vvH
 スプリット・ポイント 常に 00H 14H スプリット・キー No.
 メトロノーム 常に 00H 1BH 00H: オフ

01H: -
 02H: 2/4
 03H: 3/4
 04H: 4/4
 05H: 5/4
 06H: 6/4
 7FH: ビートなし

ダンパーレベル Ch: 00 ~ 0FH 3DH (Ch ことこのピアノ・ダンパー量を設定する)
 00H ~ 7FH

チャンネル・デチューン Ch: 00 ~ 0FH 43H (Ch ことこのデチューン量を設定する)
 00H ~ 7FH

ボイス・リザーブ Ch: 00 ~ 0FH 45H 00H: リザーブ・オフ
 7FH: オン * 1

* 1 リザーブ・オンの間に受信したボリューム、エクスプレッションは次のキー・オン時から有効になります。通常はリザーブ・オフです。

11. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(その他)

[F0H] → [43H] → [1nH] → [27H] → [30H] → [00H]
 → [00H] → [mmH] → [ℓℓH] → [ccH] → [F7H]

※ マスター・チューニング (XG と後着優先) で、全チャンネルの音程を一度に変えられるメッセージです。

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
 43H : ヤマハ
 1nH : n = YPP からの送信時は常に 0、受信時は 0 ~ F
 27H : TG100 の機種 ID
 30H : サブ ID
 00H :
 00H :
 mmH : マスター・チューニング MSB
 ℓℓH : マスター・チューニング LSB
 ccH : cc はなんでもよい。(7FH 以下)
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1チャンネル 1-16チャンネル	1チャンネル 1-16チャンネル	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード1 *1 × ×	ポリモードのみ
ノートナンバー	音域	16-115 *****	0-127 21-108	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH, v= 1-127 ○ 9nH, v= 0	○ 9nH,v= 1-127 ○ 9nH,v= 0 or 8nH	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ビッチベンダー		×	×	
コントロールチェンジ	0,32 7 11 64 66 67 91 94	○ ○ ○ ○ × ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト ボリューム エクスプレッション ダンパー ソステヌート ソフトペダル リバーブデプス エフェクトデプス
プログラムチェンジ	設定可能範囲	○ *****	○	
システムエクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	○ ○	○ ○	
その他	オールサウンドオフ リセットオールコントロール ローカルオン/オフ オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × × × ○ ×	○ (120,126,127) ○ (121) ○ (122) ○ (123-125) ○ ×	
備考	*1 受信モードは、常にマルチティンバー、ポリモードです。			

モード1:オムニオン、ポリ モード2:オムニオン、モノ
 モード3:オムニオフ、ポリ モード4:オムニオフ、モノ

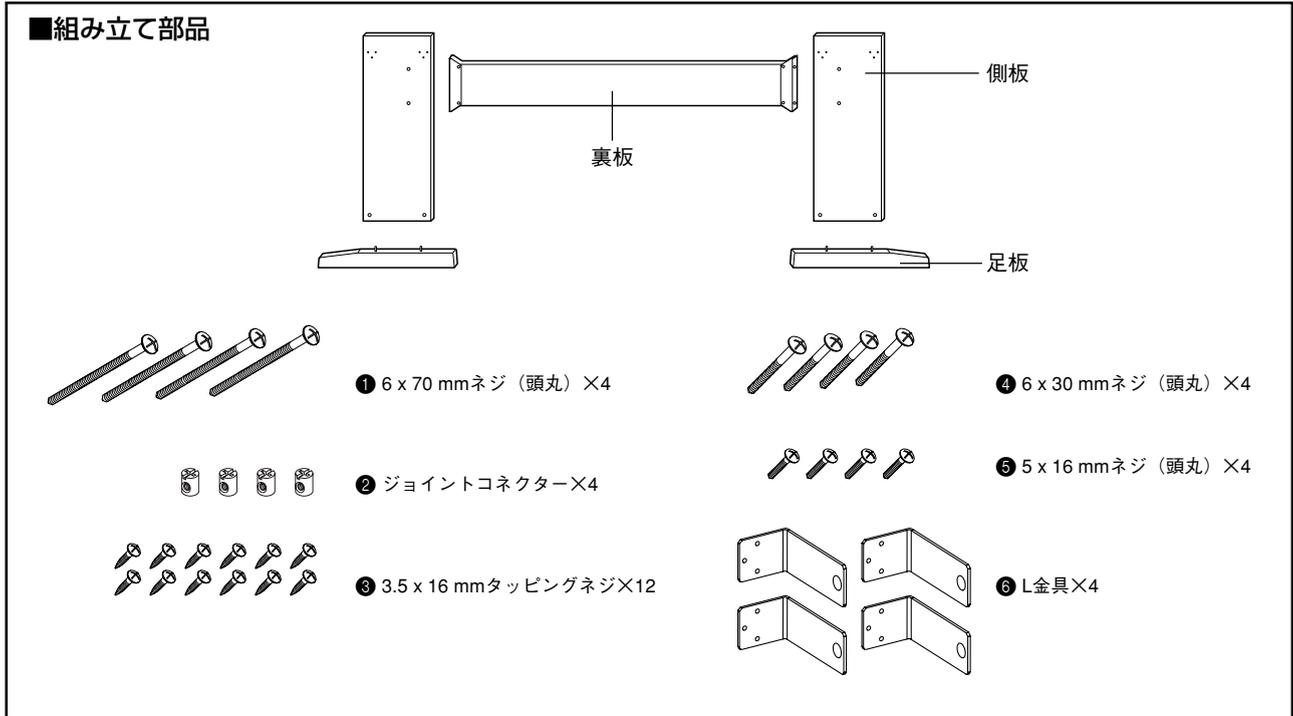
○:あり
 ×:なし

キーボードスタンドの組み立てかた

●プラス (+) のドライバーを用意します。

すべての部品を取り出し、部品がすべてそろっているかイラストを参照して確認します。

組み立て手順に従って必要な部品を使用します。



安全上のご注意

組立作業、およびご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

記号表示について

この説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

- 「ご注意ください」という注意喚起を示します。
- ~しないでくださいという「禁止」を示します。
- 「必ず実行」してくださいという強制を示します。



注意

以下の内容を無視した取り扱いをすると、障害を負う可能性、または、物的損害が発生する可能性が想定されます。



必ず実行

部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立てる。



必ず実行

組み立ては、必ず2人以上で行なう。



必ず実行

部品の取り付けは、必ず付属のネジを使用する。
付属のネジ以外のネジを使用すると、他の部品を傷つけたり、スタンドとしての機能を果たさなかったりします。



必ず実行

スタンド/キーボードは、組み立てが完了した状態で使用する。
未完成の状態で使用すると、キーボードが落ちたり、スタンドが転倒して危険です。



禁止

傾斜地や不安定な場所に設置しない。
スタンドが転倒してキーボードが故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



禁止

指定のキーボード以外の目的に使用しない。
指定のキーボード以外のものは取り付けられません。また、指定のキーボード以外のものをのせたり、スタンドにのったり、スタンドにもたれ掛かったりすると、のせているものが落ちたり、スタンドが転倒して危険です。



禁止

スタンド上のキーボードに必要な以上の力を加えない。
スタンドが転倒したりして危険です。



必ず実行

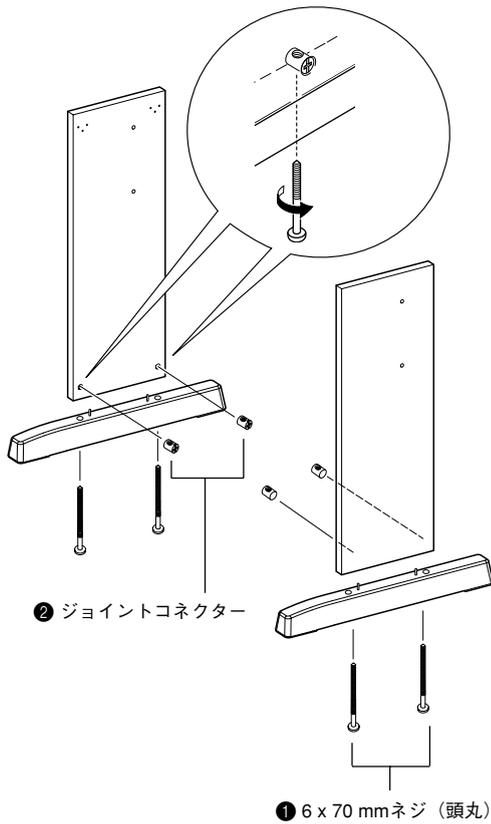
使用前に安全点検をする。
使用する前に、ネジが確実にしまっているか、必ず確認してください。ネジがゆるんでいると、スタンドが転倒してキーボードが故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

スタンドを分解するときは、組み立てと逆の手順で行なう。

1



1 左右の足板を固定します。

左右の側板はジョイントコネクタが内側になる位置に合わせて置いてください。

② のジョイントコネクタを左右の側板に差し込みます。

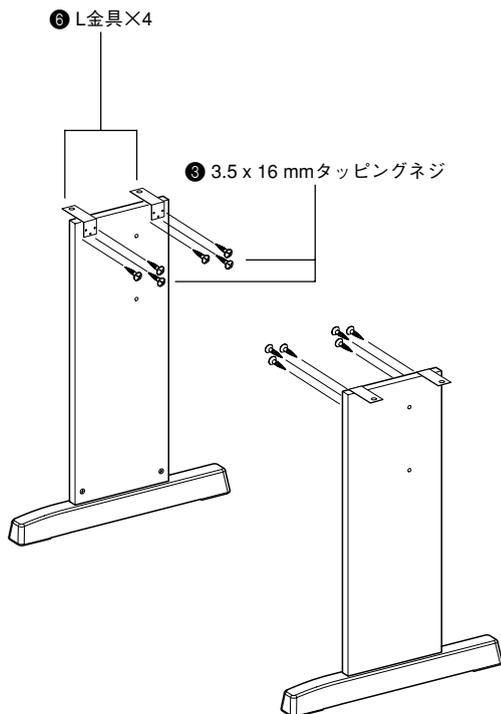
ジョイントコネクタはプラスの面が外から見える方向に差し込みます。

足板を ① のネジで固定します。

このとき、ジョイントコネクタにネジがうまく入らない場合は、ドライバーを使用してジョイントコネクタを回転させます。

ジョイントコネクタの矢印の方向がネジ穴になります。

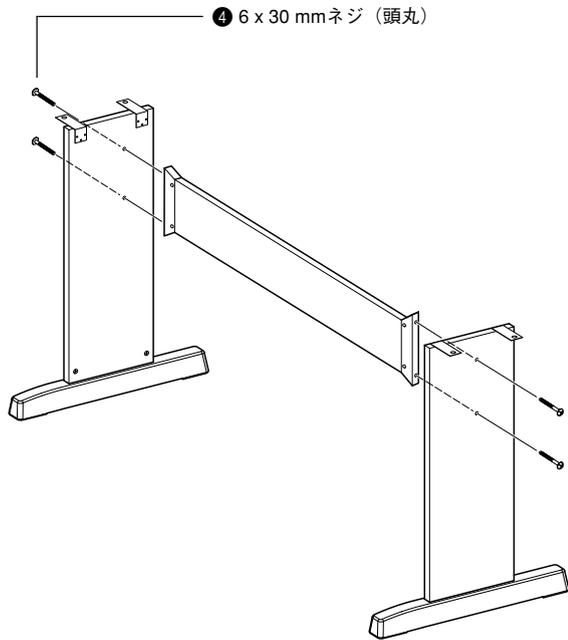
2



2 L 金具を固定します。

⑥ の L 金具を ③ のネジで固定します。

3



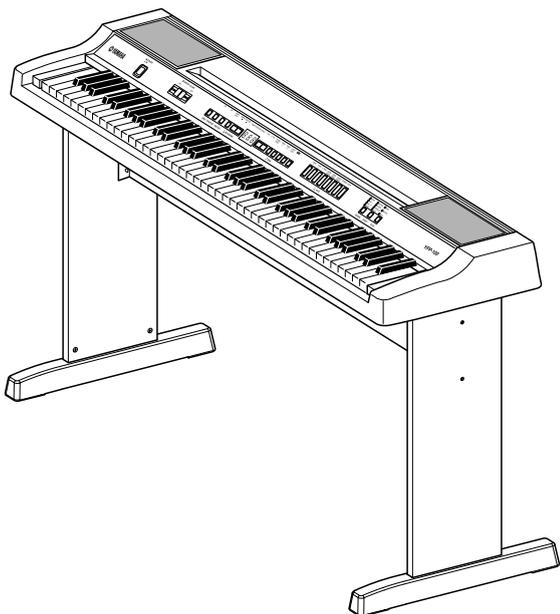
3 裏板を固定します。

裏板を④のネジで固定します。



・裏板を落としたり、金具部分に触れてけがをしないようにしてください。

4



4 スタンドに楽器を乗せます。

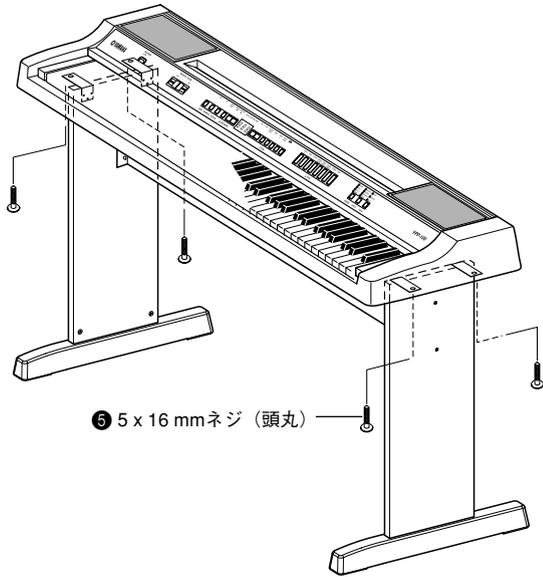
注意して楽器をスタンドに乗せます。

⌈ 金具の穴と楽器の下側の穴が合うように、ゆっくりと楽器の位置を調節してください。



・指をはさんだり、楽器を落としたりしないよう、十分ご注意ください。

5



⑤ 5 x 16 mmネジ (頭丸)

5 楽器をスタンドに固定します。

⑤のネジで楽器を固定します。

■組み立てチェックリスト

組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどにあたりませんか？
→あたらない位置に移動してください。
- 楽器/スタンドがゆれませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- 使用中に楽器がきしむ、横ゆれする、グラつくなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

別売品のご紹介

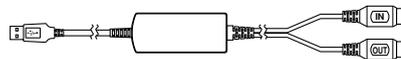
ヘッドホン HPE-150

¥4,000 (税別価格)



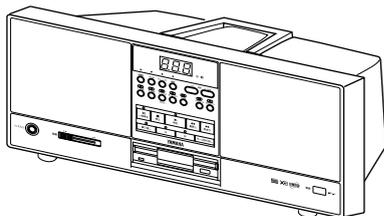
USB-MIDI インターフェース UX16

¥5,000 (税別価格)



ミュージック データ プレーヤー MDP10 (「伴奏君」)

¥58,000 (税別価格)



スピーカー一体型のミュージックデータ再生専用モジュールです。幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。YPP-100 と組み合わせて、ソフトを再生しながらのアンサンブル演奏や練習もできます。

仕様

鍵盤	76 鍵 (E0 ~ G6)
最大同時発音数	最大 64 音
音色数	8
効果	リバーブ (ルーム / ホール 1 / ホール 2 / ステージ)、 エフェクト (コーラス / フェーザー / トレモロ / ディレイ)
ボリューム	マスターボリューム
コントロール	デュアル、メトロノーム、トランスポーズ、 タッチ (ハード / ミディアム / ソフト / フィックス)、各種ファンクション
レコーダー	2トラック録音 / 再生、テンポ、シンクロスタート
ペダル	ダンパー、ソフト、スタート / ストップ
デモ	各音色デモ曲、ピアノ曲 20 曲
付属端子	OUTPUT 端子 (R、L/L+R) : 出力インピーダンス 600Ω、 ヘッドフォン端子×2、MIDI 端子 (IN、OUT)、ペダル端子
メインアンプ	6W × 2
スピーカー	12cm × 2
定格電源	AC100V, 50/60Hz
消費電力	18W
寸法 [間口×奥行き×高さ] () 内は譜面立てを立えた 場合	1178mm × 410mm × 785mm (1178mm × 410mm × 968mm)
装備	譜面立て
質量 (スタンド含む)	16.8kg
付属品	電源アダプター、フットペダル、取扱説明書 (本書)、保証書

・仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。

索引

- ・ この取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、「目次」(P9)をご覧ください
- ・ ファンクション項目の説明を捜したい場合は、「ファンクション一覧」(P34)をご利用ください。

・ 「*」印はそのページの“欄外注”に説明があることを示しています。

W 数字・ABC 順

ALL (ディスプレイ表示).....	17
FUL (ディスプレイ表示).....	29 *
HPE-150.....	11
rnd (ディスプレイ表示).....	17
Scn (ディスプレイ表示).....	46
☞の意味.....	8
▶の意味.....	8

あいうえお順

あ

安全上のご注意.....	2 ~5
移調 → トランスポーズ.....	25
エフェクト.....	14, 22
音に変化を付ける.....	22
音色.....	14, 21
音色一覧.....	48
音程の微調整 (ファンクション).....	37
音律の選択 (ファンクション).....	37
音量設定 (ピアノ 20 曲のパート再生 OFF) → ピアノ 20 曲の パート再生 OFF 時の音量設定 (ファンクション).....	39
音量設定 (メトロノーム) → メトロノーム音量の設定 (ファンクション).....	39
音量調節.....	10
音量調節 (ピアノ 20 曲).....	17

か

外部機器との接続.....	44, 45
各種の便利な設定 (ファンクション).....	34
片手練習 (ピアノ 20 曲).....	18
楽譜立て → 譜面立て.....	12
キータッチ → タッチ.....	24
キー (調) の変更 → トランスポーズ.....	25
基本設定.....	22 *, 50
基本設定一覧.....	50
基本設定に戻す.....	42
鍵盤タッチ → タッチ.....	24
効果 (エフェクト) → エフェクト.....	14, 22
効果 (リバーブ) → リバーブ.....	14, 22
工場出荷時の設定 → 基本設定.....	22 *, 50
故障かな?と思ったら.....	46
ご使用前の準備.....	10

さ

再生スタート/ストップ (デモ曲).....	16
再生スタート/ストップ (ピアノ 20 曲).....	17
再生スタート/ストップ (録音した曲).....	32
仕様.....	60
初期設定 → 基本設定.....	22 *, 50
初期値.....	31
シンクロススタート (ピアノ 20 曲).....	19
シンクロススタート (録音した曲の再生).....	33
ソフトペダル.....	21
ソング.....	17 *

た

タッチ	24
他の機器と接続する	44
端子 (OUTPUT) → OUTPUT 端子	15, 44
端子 (MIDI IN/OUT) → IN/OUT (MIDI) 端子	15, 44
ダンパーペダル	21
ディスプレイ	15
デモ曲	16
デモ曲/ピアノ曲モード	16, 17
デュアルの諸設定 (ファンクション)	38
デュアル	26
デュアルモード	26
テンポ調節 (ピアノ 20 曲)	17
テンポ調節 (メトロノーム)	27
テンポ調節 (録音した曲の再生)	32
電源	10
トラックの再生 ON/OFF	33
トラックのデータの削除	29 *
トランスポーズ	25

は

バックアップ ON/OFF の設定 (ファンクション)	41
ピアノ 20 曲	17
ピアノ 20 曲の片手練習	18
ピアノ 20 曲のパート再生 OFF 時の音量設定 (ファンクション)	39
ピアノ 20 曲の部分練習	20
ペダル機能の設定 (ファンクション)	39
拍子設定 (メトロノーム)	27
ファンクション一覧	34
ファンクション	34
ファンクションモード	35
付属品	6
ヘッドフォン	11
別売品	59
保証とアフターサービス	63

ま

メトロノーム	27
メトロノーム音量の設定 (ファンクション)	39
モード	16

ら

リバーブ	22
録音	28
録音 (記録) されるデータの種類	30
録音し直し	29
録音スタート/ストップ	29
録音モード	28

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6カ月です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、など

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「故障かな？と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスステーション	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL.(011) 512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL.(022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F	TEL.(03) 5762-2121
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL.(053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL.(052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL.(06) 6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL.(087) 822-3045
九州サービスステーション	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL.(092) 472-2134

[本社]

CSセンター	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL.(053) 465-1158
--------	-----------	-----------------------	--------------------

●所在地・電話番号などは変更されることがあります。

◆ポータブル楽器に関するお問い合わせ窓口

ポータブル楽器 インフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL. 053-460-5272

●受付日 月曜日～金曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)

●受付時間 10:00～12:00 / 13:00～17:00

EM営業統括部

企画推進室

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

TEL (03) 5488-5476

北海道営業所

〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内

TEL(011) 512-6113

仙台営業所

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10

TEL (022) 222-6147

名古屋営業所

〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28

TEL (052) 201-5199

大阪営業所

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館

TEL (06) 6252-5231

九州営業所

〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL (092) 472-2130

PA・DMI事業部

EKB営業部 CL・PK営業課

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

TEL (053) 460-3275

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

◆インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。

- ・ヤマハ株式会社のホームページ <http://www.yamaha.co.jp/>
- ・PK CLUB(ポータブル楽器ホームページ) <http://www.yamaha.co.jp/product/pk/index.html>
- ・ヤマハマニュアルライブラリー <http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/>
- ・「音楽する人、音楽したい人のための頼れるポータルサイト」
ミュージックイークラブ・ドットコム <http://www.music-eclub.com>

ヤマハ株式会社

M.D.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation

©2002 Yamaha Corporation

V934560 ???AP???.?-01A0 Printed in China